

専門業者様向け

# アイジールーフ 施工説明書 **新築用**

- ◆スーパーガルテクトフッ素
- ◆スーパーガルテクト
- ◆スーパーガルテクトC

2023年10月版

## 施工説明書のご使用にあたって

- 施工説明書は、アイジールーフを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。
  - 施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。
- 
- アイジールーフの保証書の発行には、施工説明書に記載している施工方法に従っていただくことが必要です。
  - 施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。
  - 施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジールーフの機能や性能を確保するための代表的な例です。
  - 施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジールーフの機能や性能を確保できる方法を選定してください。
  - 施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。
  - 元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。
  - 施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。
-

# 目次

事故防止のために	1	認定関係	9
取り扱い時のお願い	2	・飛び火性能認定	9
・運搬、保管上の注意	2	・飛び火性能認定使用範囲	9
・施工上の注意	2	施工の手順	10
・その他	2	下地の確認	11
アイジールーフを美しく保つために	3	・下地造りの確認	11
・クリーニングについて	3	・唐草G50の取り付け	11
・表面材にキズが付いたとき	3	・下葺き材の施工	12
・防水について	3	本体の施工とポイント	13
・大気汚染について	3	各部の納まり	15
・安全に関する注意	3	・軒先の納まり	15
アイジールーフ適用地域一覧	4	・ケラバの納まり	16
施工に必要な工具と材料	5	・棟の納まり	23
本体規格	6	・隅棟の納まり	26
・本体形状断面図	6	・谷の納まり	33
・本体規格	6	・壁との納まり	35
・物性表	6	・換気棟の納まり	39
部材規格	7	・雪止めの納まり	47
		積算方法	48
		免責事項	50

# 事故防止のために

アイジールーフは屋根材です。  
屋根以外の部位に使用しないでください。



## 警告

死亡または重傷を負う可能性が  
想定される場合の表示です。

1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。  
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



## 注意

取り扱いをあやまると障害を負う  
危険や物的損害などの可能性が想  
定される場合の表示です。

1. アイジールーフは2.5寸以上の勾配で使用してください。  
2.5寸未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。  
・勾配と流れ長さの制限

勾配	2.5寸～3寸	3.5寸以上
流れ長さ	7m以下	20m以下

2. 取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。けがをする可能性があります。
3. 現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。けがをする可能性があります。
4. 防水のため、施工の際は下地に下葺き材を施工し、働き幅による割り付けを行ってください。
5. アイジールーフは一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります（P4参照）。
6. 落雪による事故を防止するため雪止めを使用してください。
7. 包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
8. シーリング・タッチアップペイントなどは安全データシート（SDS）に従って正しく使用してください。
9. 電動工具など、工具の使用の際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

# 取り扱い時のお願い

## 運搬、保管上の注意

- ・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
- ・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みしてください。
- ・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
- ・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
- ・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
- ・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
  - 商品を放り投げる、または落とすこと。
  - 商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
  - 商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
  - 商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、2点支えにすること。
  - 商品より小さなパレットなどを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。
- ・商品を保管するときはできるだけ横置きにしてください。
- ・商品を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
  - 荷上げの際の落下事故には十分に注意してください。
  - 保管する重量に見合った滑落防止策を講じてください。
  - 本体を立てかける場合は、端部が破損するおそれがありますので、本体の左側（断熱材がない方の端部）を上にしてください。

## 施工上の注意

「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」について防水に関する施工方法は、加入している住宅瑕疵担保責任保険法人の設計施工基準を確認してください。

- ・アイジールーフは木造下地専用です。
- ・商品が電線に接触すると感電する可能性があります。電線に触れないように注意してください。併せて事前に電力会社に依頼するなど、感電防止処置を講じてください。
- ・下地に下葺き材を施工してください（P12参照）。
- ・下葺き材の施工後に、たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・商品を施工する前に働き幅で墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。
- ・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
- ・エアネイラーを使用する場合は、アイジールーフのしん材のつぶれやくぎの頭抜けがないように、事前に圧力調整を行い打ち込み深さを確認してから施工してください。留め具は、施工する工法に即した長さを選定してください。番線タイプのくぎは、施工後に番線が飛散しキズやさびの原因にもなりますので使用しないでください。
- ・ケラバ水切には、ケラバ面戸を使用してください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、商品に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- ・横ジョイント部、差し棟キャップ、換気棟は変形のおそれがありますので、上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- ・すりキズ防止のために、商品の表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
- ・商品の塗装が傷みますので、表面材に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
- ・表面材にキズが付いた場合には、純正のタッチアップペイントで補修してください。タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみで使用してください。
- ・くぎ打ち部や下葺き材に、打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリング材や防水テープで防水処理をしてください。
- ・上階の屋根からの樋は必ず軒先まで通し、下階の屋根面へは排水しないでください。
- ・商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで必ず払ってください。
- ・アイジールーフに、銅などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いには注意してください。
- ・アイジールーフには必ず純正部材を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
- ・3寸勾配以下の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください（P14参照）。
- ・部材の留め付け間隔は455mm以下とってください。

## その他

- ・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。
- ・小屋裏にテレビアンテナを設置している場合、金属屋根の施工でテレビの「映像が乱れる」「映らない」といった受信障害が出る可能性があります。テレビの受信状況の確認やテレビアンテナの対策作業を行ってください。



# アイジールーフを美しく保つために

---

## クリーニングについて（表面材に汚れが付着したとき）

---

- ・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。
- ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。

## 表面材にキズが付いたとき

---

タッチアップペイント（純正品）による補修について

注意事項

- ・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみを使用してください。本体や部材の変形を伴うキズや、広範囲にわたる塗装には使用しないでください。
- ・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材と塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し、補修箇所が目立つことがあります。また、ちぢみ塗装品は表面意匠の特性より、補修後も同じような意匠を再現することはできません。あらかじめご了承ください。
- ・タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
- ・事前に商品の端材や目立たない箇所で試し塗りを行い、色調を確認してください。
- ・遮熱性フッ素樹脂塗装の商品（スーパーガルテクトフッ素など）に、タッチアップペイントを使用する場合は目荒しが必要です。補修するすりキズ部分には、目荒しを行ってください。目荒しを行わない場合、タッチアップペイントと表面の塗膜に密着性が得られませんので注意してください。
- ・補修の前に表面の汚れ、ほこり、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
- ・補修する場合は、タッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修部分は目立ちますので、できるだけ丁寧な取扱いをお願いします。
- ・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）や、雨や露などにより被塗面が濡れる場合や、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
- ・火気には十分に注意してください。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気やガスなどを吸い込まないようにしてください。
- ・取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクや送気マスク、保護めがねや保護手袋・前掛けなどを着用してください。
- ・火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
- ・目に入った時は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の石けん水で洗い落とし、痛みや外観に変化が認められる場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・蒸気やガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、風通しのよいところで安静にし、必要に応じてできるだけ早く医師の診察を受けてください。

## 防水について

---

- ・シーリング材は2～3年を目安に点検してください。  
経年変化による劣化で切れが生じた場合には、補修することにより漏水を未然に防いでください。

## 大気汚染について

---

- ・大気中には表面基材の腐食の原因となるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。

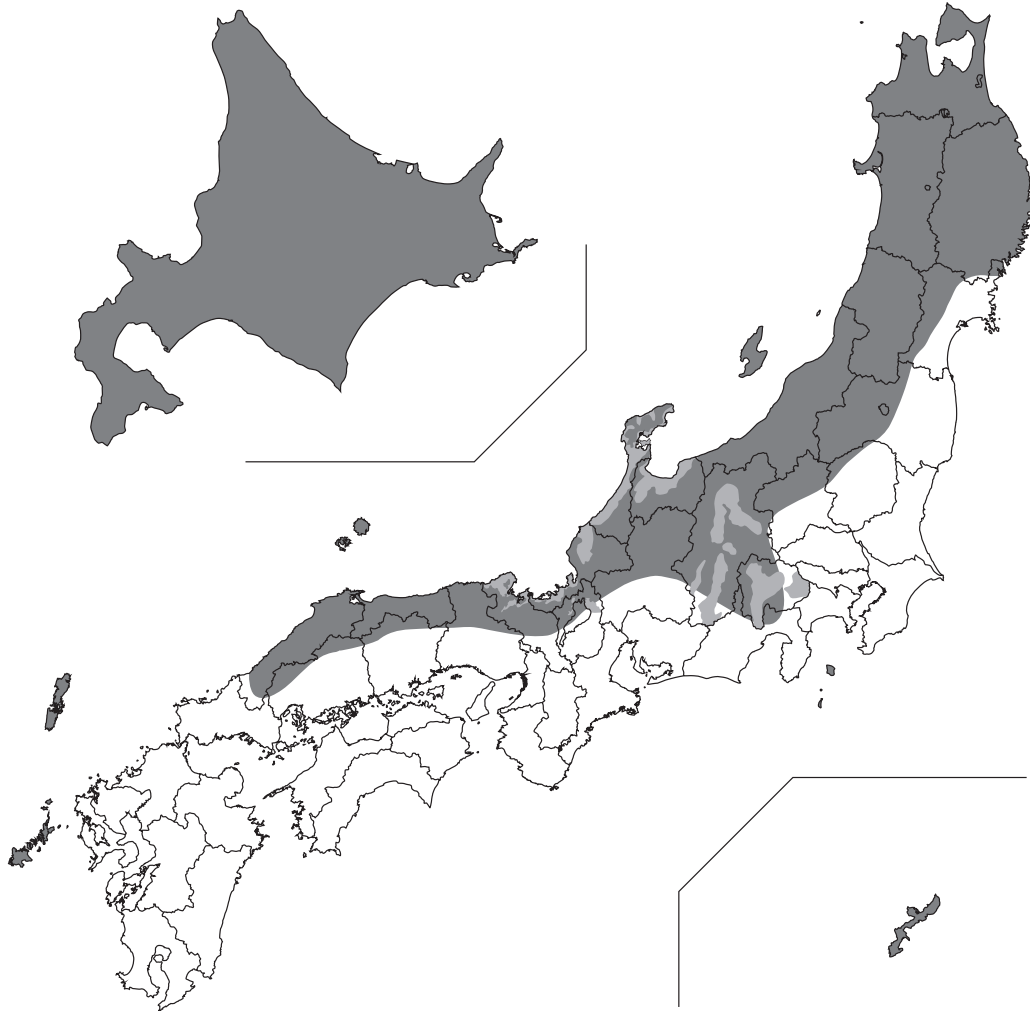
## 安全に関する注意

---

- ・お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・点検は、屋根を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
- ・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
- ・雨などで濡れた屋根の上には絶対に乗らないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・洗剤を使用しての洗浄の際は、周辺の生物に影響がないよう、十分に注意してください。

# アイジールーフ適用地域一覧

スーパーガルテクトは、最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の一般地域で使用可能です。  
 積雪量の多い地域では、すが漏れの恐れがあるため施工不可としています。  
 準一般地域では別途施工基準を設けておりますので、詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。



この全国積雪分布図は、気象庁編集による一般財団法人気象業務支援センターが発行した「メッシュ気候値2000」をもとにアイジー工業株が独自に作成したものです。

適用区分	年間平均最深積雪量
一般地域	標準仕様にて施工可
準一般地域	積雪地区対応仕様にて施工可（最寄りの営業所へお問い合わせください）
施工不可地域	おおむね30cm以上の積雪地域、沖縄県及び離島

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

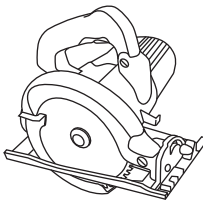
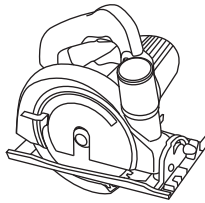
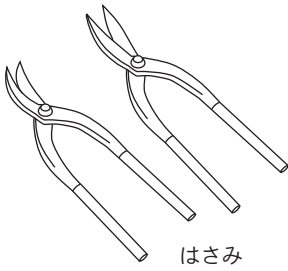

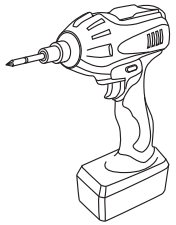


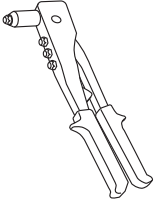

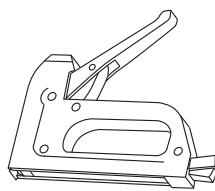
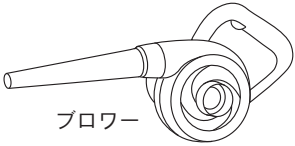

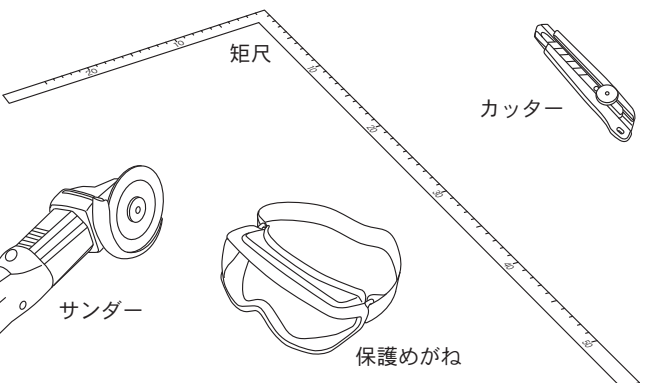
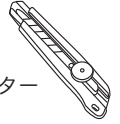
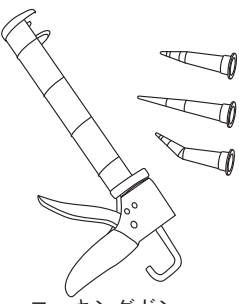
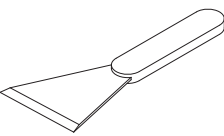
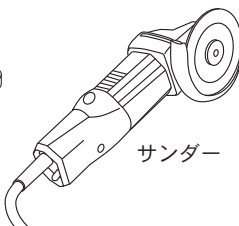


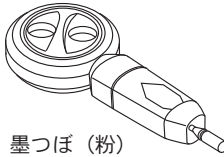
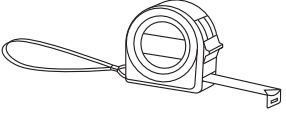
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 施工に必要な工具と材料

## 工具類

切断工具類		折り曲げ工具類	
 電動丸のこ	 防塵丸のこ	 はさみ	 つかみ
取り付け工具類			
 インパクトドライバー	 ハンマー	 釘抜き	 リベッター
		 釘しめ	 タッカー
その他の工具類			
 ブロワー	 はけ	 矩尺	 カッター
 コーキングガン	 スクレーパー	 サンダー	 保護めがね
	 水糸	 墨つぼ(粉)	 スケール

## 留め具

名称		材質	サイズ
くぎ		ステンレスまたは鉄(亜鉛めっき)	長さ50mm以上
木ビス(木ねじ)	市販品	ステンレスまたは鉄(亜鉛めっき)	長さ50mm以上
	専用品	ルーフ用ビス4×55	ステンレス(ディズゴ処理) 長さ55mm

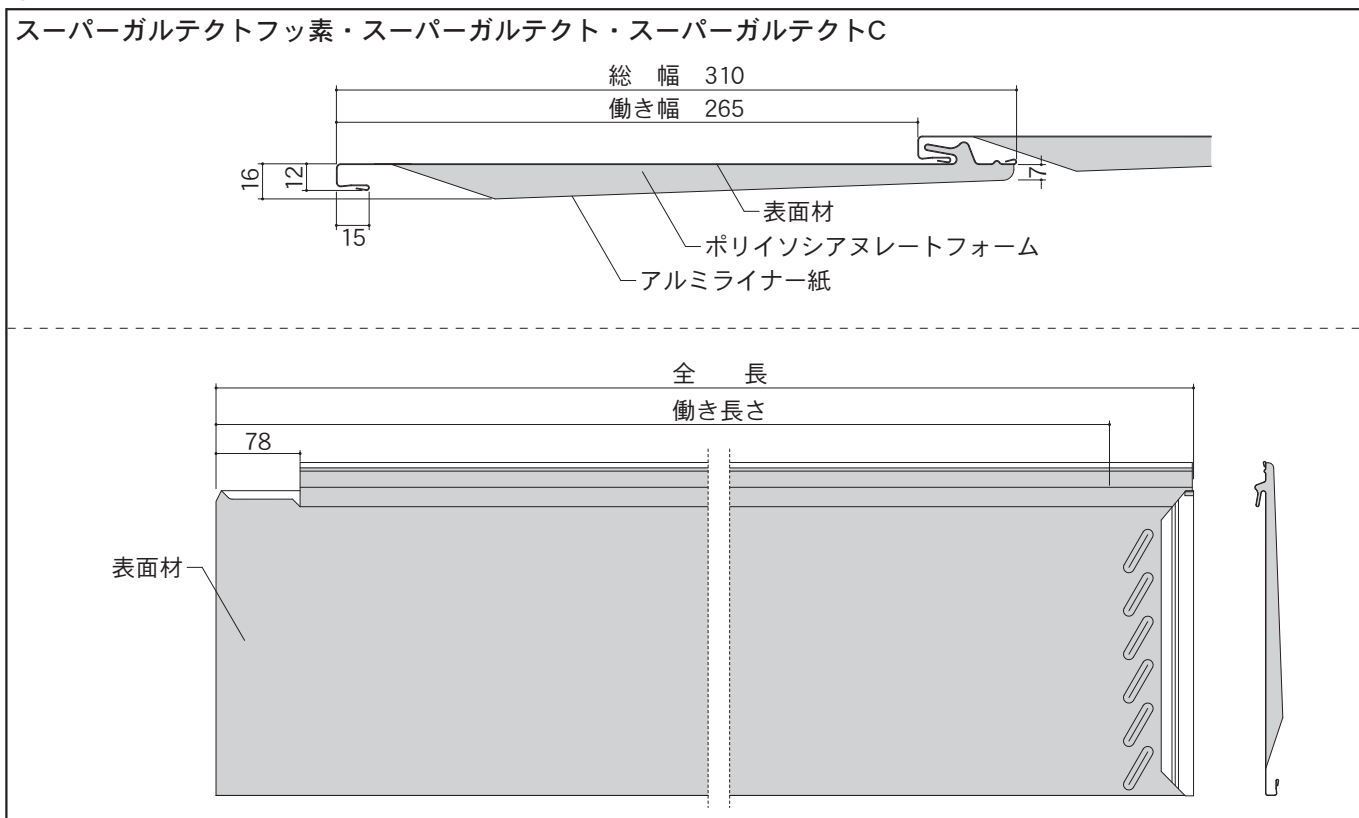
- ⚠ 切断工具、穴あけ工具、ブロワーなどを使用する場合は必要に応じて保護眼鏡などの保護具を使用してください。  
 ○上記の工具は代表的な工具であり、施工状況に合わせて他の工具が必要になる場合があります。  
 ○屋根の上では、丸のこを使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、近隣への飛散を防止し、屋根についた切粉は完全に除去してください。



# 本体規格

## 本体形状断面図

単位：mm



## 本体規格

商品名	働き長さ	全長	入り数面積	入り数	働き幅	総幅	厚さ	重量
スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト	2,960mm	3,038mm	4.71m <sup>2</sup>	6枚	265mm	310mm	最大16mm	5.0kg/m <sup>2</sup>
スーパーガルテクトC	1,820mm	1,898mm	2.90m <sup>2</sup>					

商品名	表面材
スーパーガルテクトフッ素	エンボス加工遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクト スーパーガルテクトC	エンボス加工遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)

超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。

## 物性表

項目	性能値	試験方法	試験体仕様
しん材熱伝導率	0.032W/mK (0.028kcal/mh°C)	JIS A 1412-2	
熱貫流率	1.43W/m <sup>2</sup> K (1.22kcal/m <sup>2</sup> h°C)	JIS A 1420	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
水密性	平均圧力 750Pa (76kgf/m <sup>2</sup> )	JIS A 1414	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
耐風圧性	正圧：4,000Pa(407kgf/m <sup>2</sup> )以上 負圧 <sup>※1</sup> ：5,500Pa(560kgf/m <sup>2</sup> )	空気圧による 等分布荷重	本体留め具 <sup>※2</sup> ：ルーフ用ビス4×55 下地条件 <sup>※3</sup> ：構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
加工性	2T (塗膜剥離しないこと)	-	
耐食性	1,000時間	JIS Z 2371 塩水噴霧試験	

■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。

※1 耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

※2 くぎでの性能値は、別途お問合せください。

※3 防水のため、下葺き材を施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 部材規格

単位：mm

商品名	唐草G50	ケラバ水切	ケラバ面戸	ケラバ水切エンド	
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	材質：発泡EPDM 100個/箱	50個/箱	
商品名	ケラバキャップD(左)	ケラバ下地D	ケラバキャップD(右)	棟・隅棟包みD	棟巴
商品図					
梱包単位	10個/箱	L=2,727 5本/包	10個/箱	L=2,727 5本/包	スーパーガルテクト・ スーパーガルテクトCのみ 15個/箱
商品名	剣先	差し棟キャップD3寸	差し棟下地D	差し棟キャップD5寸	谷樋D(II)
商品図					
梱包単位	2.5寸～4.5寸勾配用 5本/箱	2.5寸～4.5寸勾配用 20個/箱	L=2,727 5本/包	5寸～6寸勾配用 20個/箱	L=2,727 1本/包
商品名	壁押えD(II)	C型捨板	L型捨板	ジョイント下地 <sup>(注2)</sup>	雪止めGT(III)ハネタイプ
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 4本/包	L=2,727 5本/包	30個/箱	材質：ステンレス(アクリル塗装) t=1.2 50個/箱

部材規格

単位：mm

商品名	換気棟	換気棟用エンドキャップ	換気棟L	片流れ用棟包み <sup>(注1)</sup>	片流れ用換気棟
商品図	 <p>下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>併用</p> <p>2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>併用</p> <p>下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>2.5寸～6寸勾配用 L=2,150</p>	 <p>片流れ換気用水切 捨水切・固定ビス同梱 2.5寸～6寸勾配用 L=2,150</p>
梱包単位	1セット/箱	2個/箱	1セット/箱	5本/包	1セット/箱
商品名	片流れ換気用水切 <sup>(注1)</sup>	段付面戸D	平型面戸	10MコイルD	防水テープ
商品図	 <p>L=2,150</p>	 <p>材質：発泡EPDM</p>	 <p>両面テープ</p> <p>材質：発泡EPDM L=2,000</p>	 <p>W=914 L=10m</p>	 <p>材質：ブチルゴム系粘着材 両面接着タイプ L=20m</p>
梱包単位	5本/包	50個/箱	50本/箱	1本/箱	—
商品名	防水テープD	ルーフ用ビス 4×55	タッチアップペイント	エコシーリング	エコシーリングホルダー
商品図	 <p>材質：ブチルゴム系粘着材 片面接着タイプ L=20m</p>	 <p>材質：ステンレス(ディスコ処理)</p>	 <p>内容量=15ml</p>	 <p>別売りホルダーが無いと 使用できません。</p> <p>材質：変成シリコーン 内容量=320ml</p>	
梱包単位	—	300本/箱	—	10本/箱	2本/箱

・スーパーガルテクトフッ素用部材の材質は遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。  
 ・スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC用部材の材質は遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。  
 ・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-垂鉛合金めっき鋼板です。  
 ・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。  
 ・スーパーガルテクトフッ素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒らしが必要です。目荒らしの方法に関しては、P3を参照してください。  
 (注1)・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつないで施工する場合は、片流れ用棟包みと片流れ換気用水切を併用して施工してください。  
 (注2)・3寸勾配以下の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください (P14参照)。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 認定関係

## 飛び火性能認定 DR-1977 (1) (屋根勾配：2.5～27.5寸適応)

	材料	寸法
屋根材	スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト スーパーガルテクトC	—
目地部部材	ジョイント下地 (有りまたは無し)	—
防水材	アスファルトルーフィング940 改質アスファルトルーフィング 粘着層付き改質アスファルトルーフィング	—
野地板	構造用合板 素地パーティクルボード 構造用パネル (OSB)	厚さ12mm以上
たる木	木製下地	45mm×60mm以上 (間隔500mm以下)

## 飛び火性能認定使用範囲

### ■ 木造下地

用途	地域	延床面積 (S)m <sup>2</sup> 階数	S ≤ 100	100 < S ≤ 500	500 < S ≤ 1000	1000 < S ≤ 1500	1500 < S ≤ 3000	3000 < S	
			共同住宅		防火	1,2階建	30分準耐火構造	30分耐火構造	
準防火	3階建	30分準耐火構造			30分耐火構造				
	1,2階建	飛び火性能(法62条)			30分耐火構造				
22条区域	3階建	30分準耐火構造					30分耐火構造		
	1,2階建	飛び火性能 (法22・25条)			30分準耐火構造 (2階床面積が300m <sup>2</sup> 以上の場合)				
戸建住宅		防火			1,2階建	30分準耐火構造	30分耐火構造		
		準防火	3階建	準防火3階建仕様		30分準耐火構造		30分耐火構造	
			1,2階建	飛び火性能(法62条)		30分耐火構造		30分耐火構造	
		22条区域	3階建	飛び火性能 (法22・25条)					30分耐火構造
			1,2階建	飛び火性能 (法22・25条)					

スーパーガルテクトが使用可能な範囲です。

□ 飛び火性能認定を取得している構造とする。

■ 飛び火性能に、その屋内側の部分または、直下の天井部分に防火被覆として強化せっこうボード(厚さ12mm以上)と防火被覆の取り合い部分に当て木を設け、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする(建設省告示1358号)

■ 飛び火性能に、その屋内側の部分または、直下の天井部分に防火被覆として強化せっこうボード2枚以上(合計厚さ27mm以上)と防火被覆の取り合い部分に当て木を設け、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする(建設省告示1399号)

- ・高さ16mを超えるもの(車庫、倉庫は13mを超えるもの)、または階数が4以上の木造建築は、地域に関わらず30分準耐火構造以上の性能が求められます(法21条)。

(注) 飛び火性能認定は構造認定ですので、認定を取得している仕様にて施工してください。

スーパーガルテクトの飛び火性能認定は、木造下地での仕様です。鉄骨下地では使用できません。

以上は、屋根のみに関する建築基準法の大まかな制限を表しています。

自治体の条例などで建築基準法より厳しい制限が設けられている場合がありますので、計画の際は前もって管轄の行政庁にご確認ください。

# 施工の手順

## 下地の確認

### 下地造りの確認

- ・たる木 45×60mm以上、間隔455mm以下
- ・野地板 構造用合板 特類2級（厚さ12mm）など
- ・受木の施工



### 唐草G50の取り付け

- ・捨て水切（現場加工）を施工してください。
- ・唐草G50を取り付ける前に、墨出しを行ってください。
- ・墨出しに合わせて、唐草G50を取り付けてください。取り合いは、各部の納まり（P15～参照）と合わせて確認してください。



### 下葺き材の施工

- ・下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に下葺き材の種類を確認してください。詳しくは、P12を参照してください。



### 墨出し

- ・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。



## 各部の納まり

- ・P15～参照をしてください。
- ・各部の施工及び納め方は、各部の納まりを確認し、適切に行ってください。



## 検査（補修）クリーニング

- ・表面材のキズの補修や、クリーニングについては、**取り扱い時のお願い、アイジールーフを美しく保つために**を確認し適切に行ってください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 下地の確認

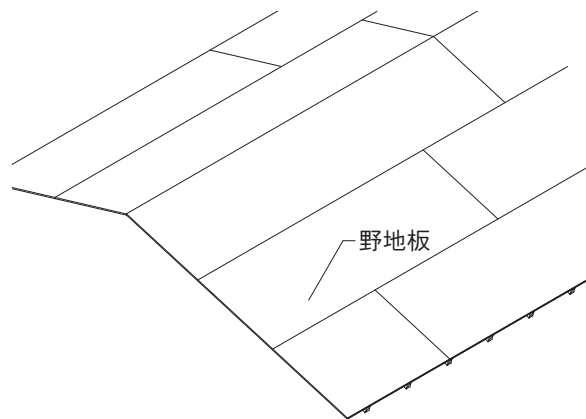
## ○下地造りの確認

### ○たる木

45×60mm以上、間隔455mm以下

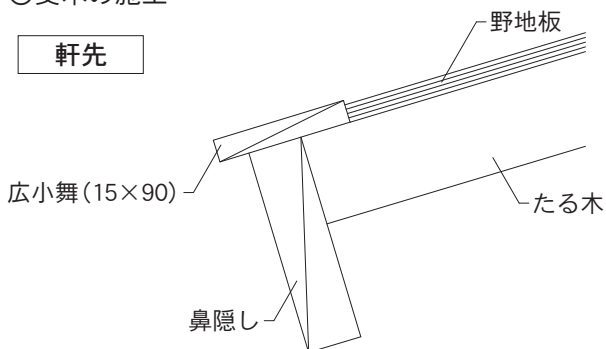
### ○野地板

構造用合板 特類2級 (厚さ12mm) など  
注意：小幅板は使用しないでください。

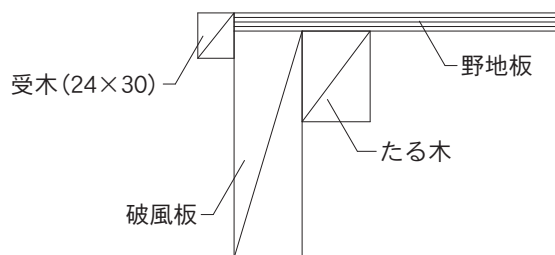


### ○受木の施工

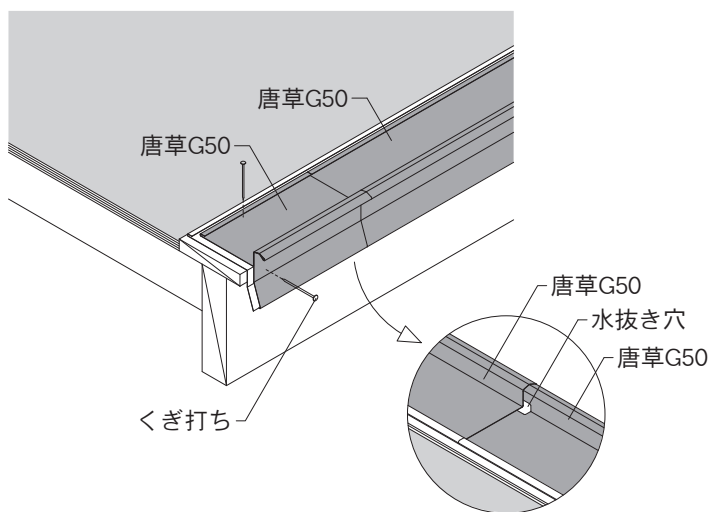
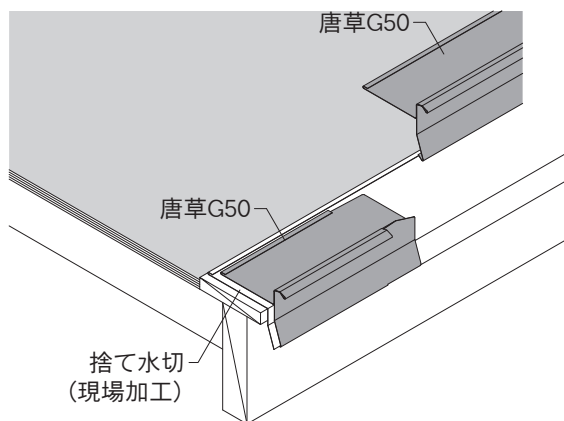
#### 軒先



#### ケラバ



## ○唐草G50の取り付け



○捨て水切 (現場加工) を施工し、唐草G50をくぎ打ちしてください。

○唐草G50を施工する前に、墨出しを行ってください。

○唐草G50は、墨出しに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。唐草G50同士をつなぐため、切り欠き加工が施されています。



## ○下葺き材の施工

下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認してください。

勾配	2.5 寸～3.5 寸未満	3.5 寸勾配以上
流れ長さ	7m 以下	20m 以下
下葺き材	片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング	改質アスファルトルーフィング
ジョイント下地	ジョイント下地を施工	不要

### 一般

○流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

### 軒先

○唐草G50と下葺き材は、防水テープで密着してください。水抜き穴を下葺き材で、ふさがないように注意してください。  
※片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は、無し。

### 谷

①谷の中心に合わせ、下葺き材を施工してください。  
②下葺き材は、片側250mm以上ずつ重ねてください。

### 棟

①下葺き材は、片側250mm以上重ねて施工してください。  
②下葺き材は、棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

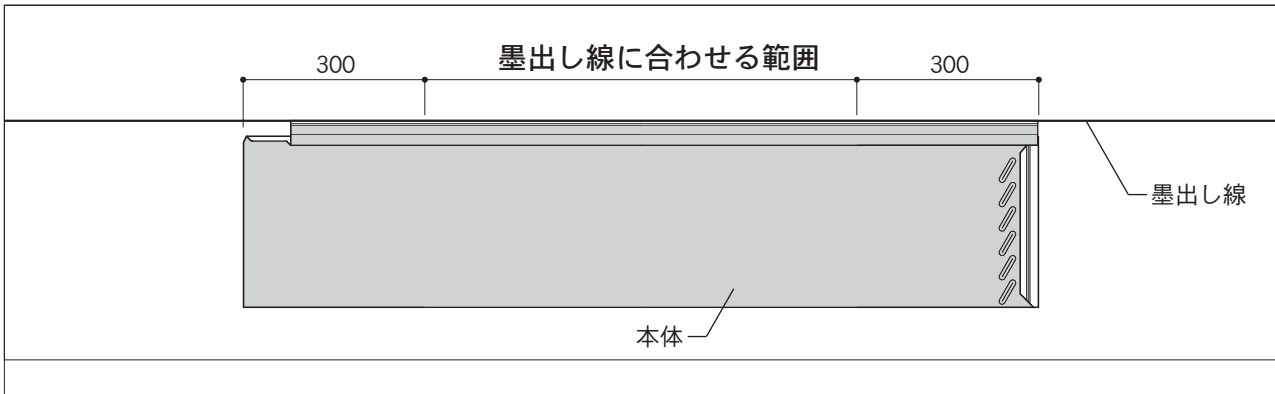
### 壁との取り合い

○下葺き材は、250mm以上立ち上げて施工してください。

事故防止のため  
取り扱い時  
美しく保つために  
アイジールーフ  
適用地域一覧  
アイジールーフ  
施工に必要な  
工具と材料  
本体規格  
部材規格  
認定関係  
施工の手順  
下地の確認  
本体の施工と  
ポイント  
各部の納まり  
積算方法

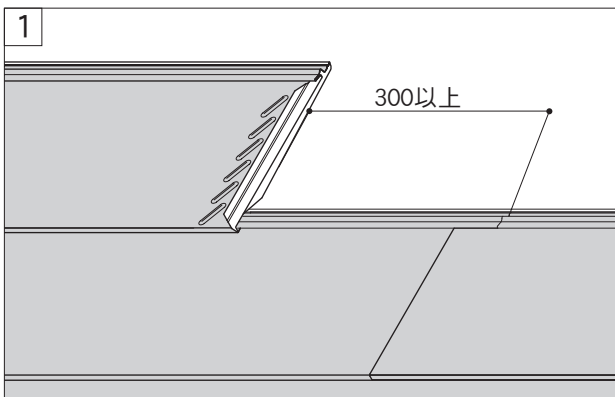
# 本体の施工とポイント

## 墨出し線への合わせ方

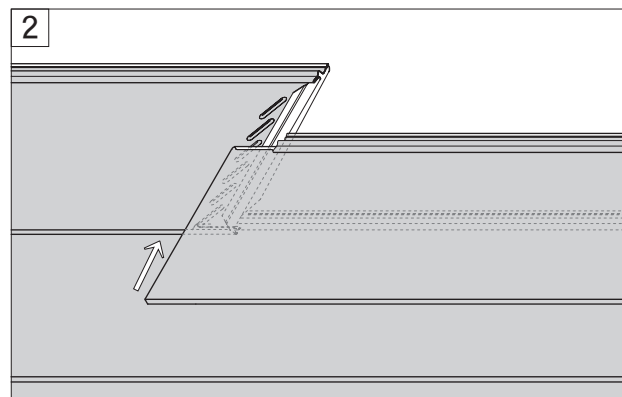


- 本体を施工する前に、唐草G50が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
- 本体は、左右両端の300mm程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。

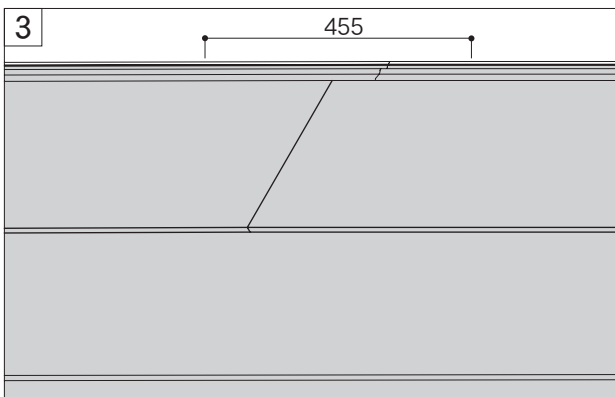
## 本体の施工



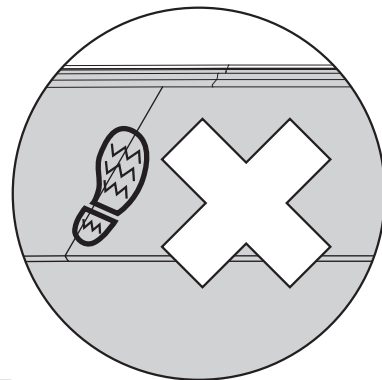
- 施工は必ず左から右へ行ってください。
- 横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
- 本体の横ジョイント部は上下で重ならないように300mm以上離して割り付けてください。



- 横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
- 横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数mm程度の段差が発生します。



- 本体は、455mm間隔以下でたる木に留め付けてください。

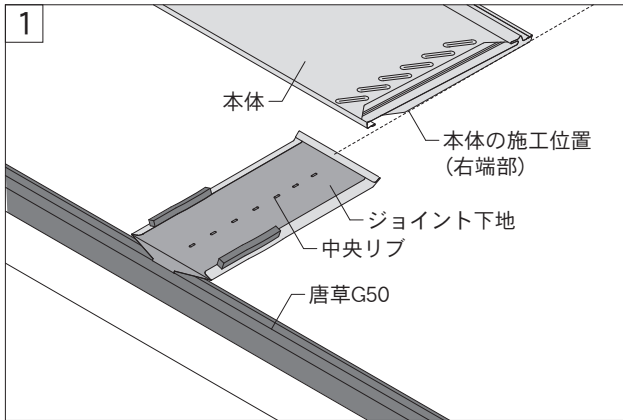


### 注意

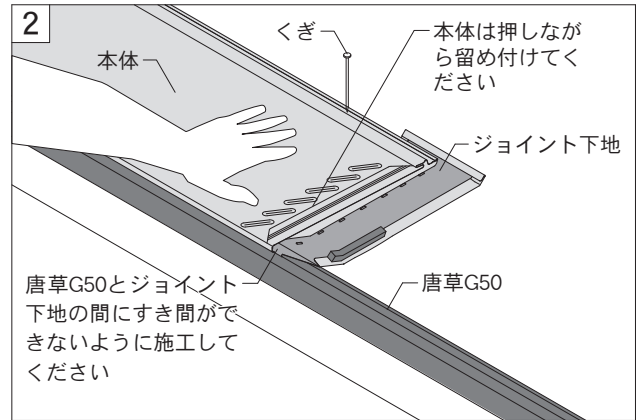
横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

ジョイント下地の施工

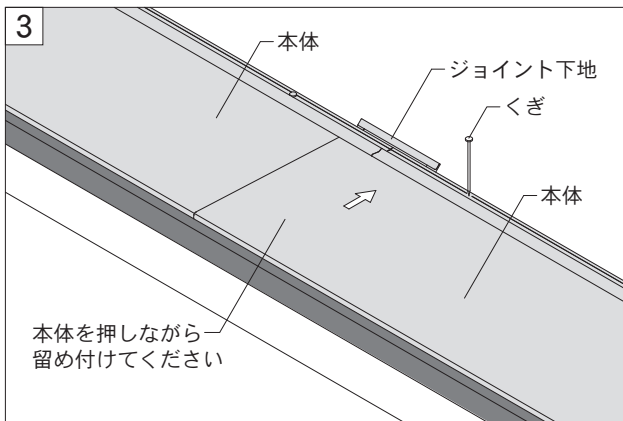
3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。墨出し線への合わせ方や注意などは、P13を参照してください。



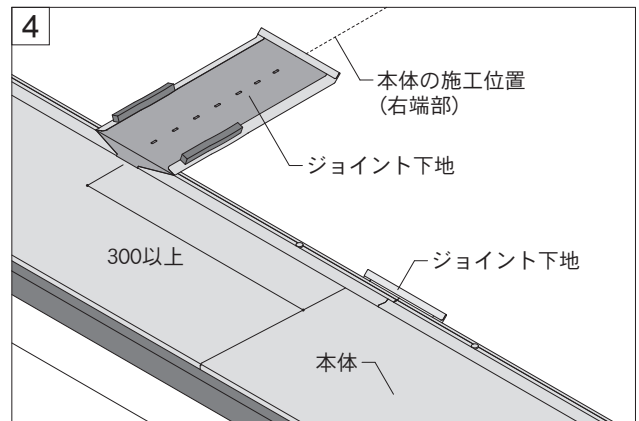
○最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リップを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



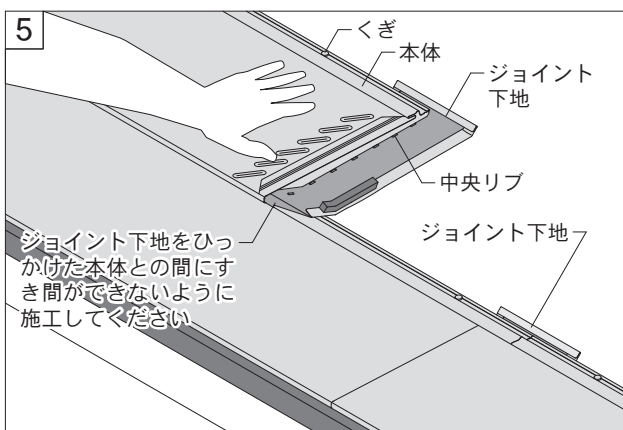
○手で本体を押しながら留め付けてください。



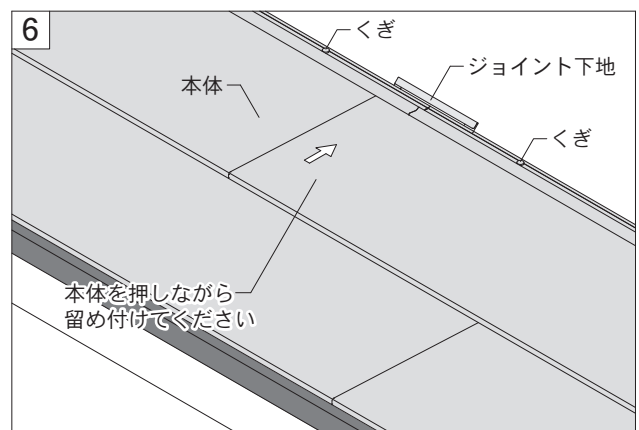
○次の本体も手で押しながら留め付けてください。



○施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300 mm以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



○一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リップに合わせて配置し、手で本体を押しながら本体を留め付けてください。



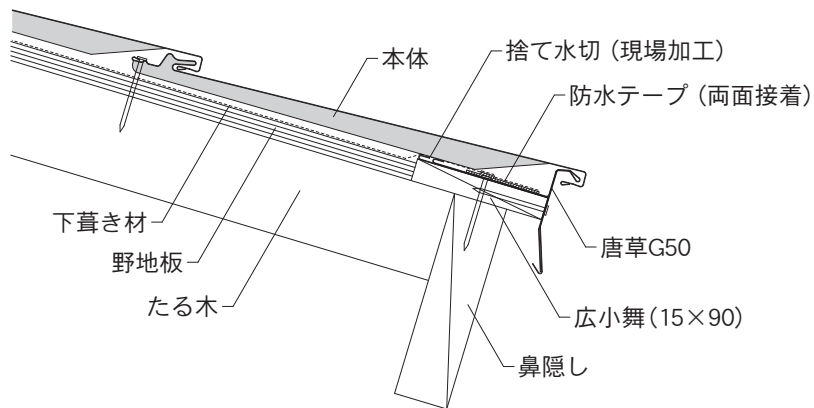
○③と同様に、次の本体も手で押しながら留め付けてください。

事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

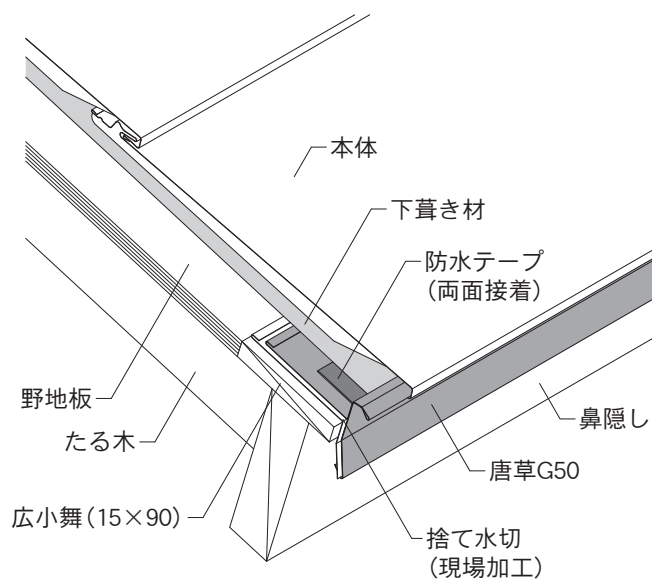
# 各部の納まり

## ○軒先の納まり 〈唐草G50〉

納まり図



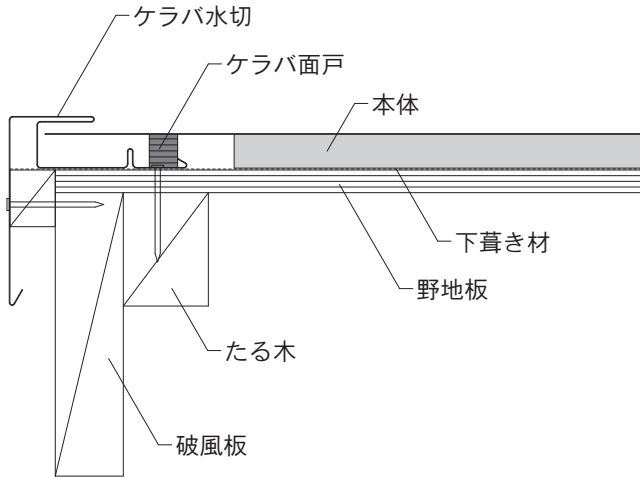
施工手順



- 捨て水切（現場加工）を施工してから唐草G50を施工してください。
- 唐草G50は、墨出しを行い、それに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。
- 本体を唐草G50に引っ掛けて取り付け、くぎ打ちしてください。本体の施工方法は、P13を参照してください。

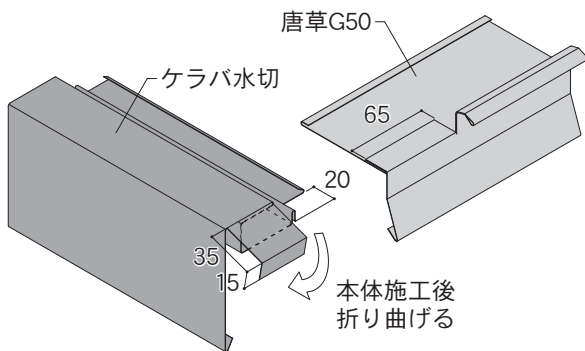
○ケラバの納まり① 〈ケラバ水切・ケラバ面戸〉

納まり図

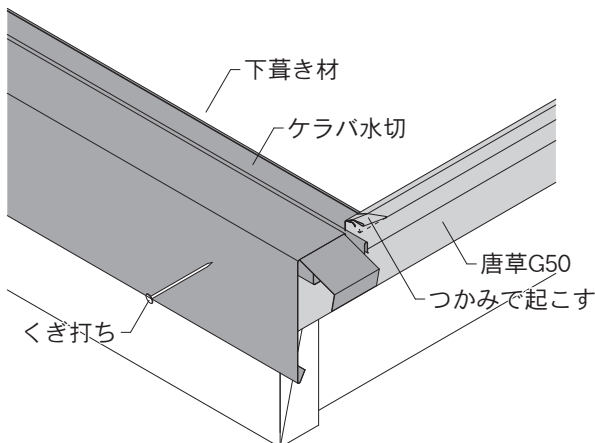


○ケラバ水切を施工する際は、ケラバ面戸を使用してください。

施工手順 1



- 唐草G50とケラバ水切の取り合いは、図のように加工して取り付けてください。
- ケラバ水切の軒先は、本体施工後折り曲げてください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P20を参照してください。



- 唐草G50→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
- 唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

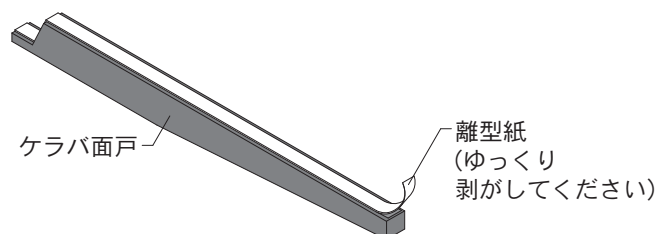
下地の確認

本体の施工とポイント

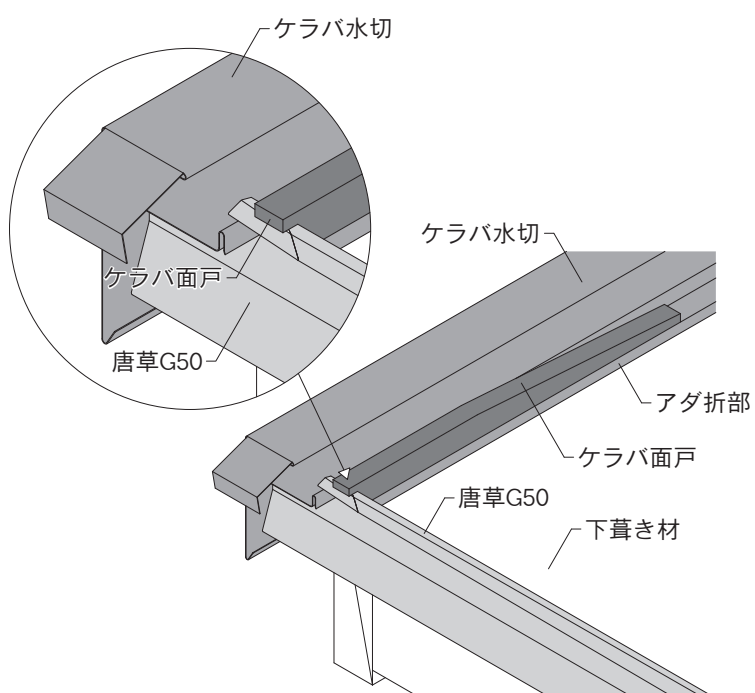
各部の納まり

積算方法

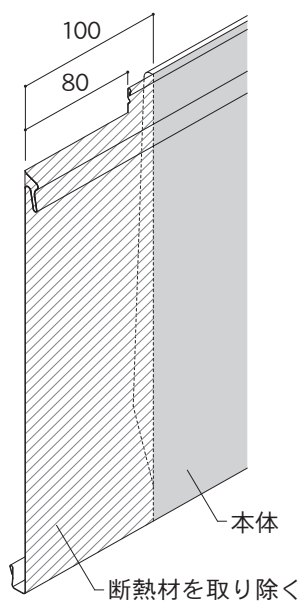
## 各部の納まり



- ケラバ水切を施工する際は、ケラバ面戸を使用してください。
- ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。



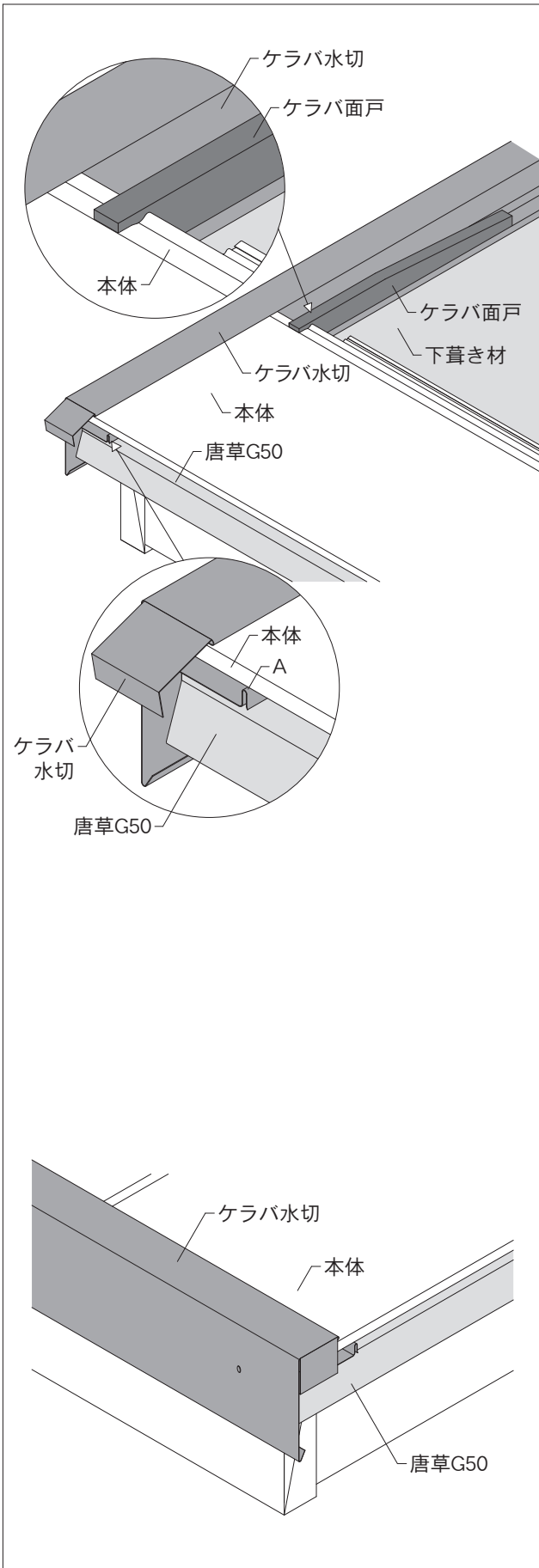
- ケラバ面戸は、唐草G50の引っ掛け部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。



- 切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を80mm程度切断してください。



## 各部の納まり



- 本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。
- ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体のかん合部にも隙間がないように密着させてください。
- 二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。

- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。(P19参照)

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

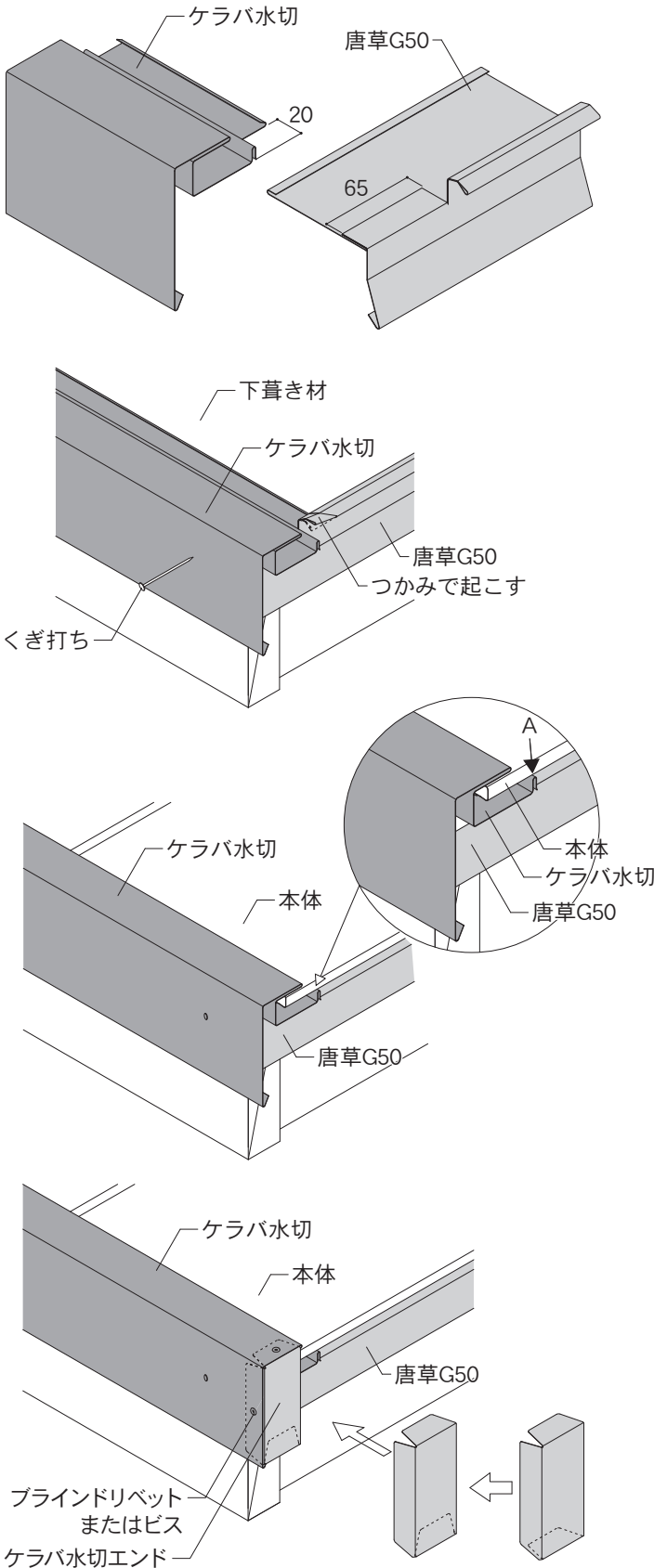
下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

施工手順 2 <ケラバ水切エンドを併用する場合>



- 唐草G50とケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 唐草G50→下葺き材→ケラバ水切→本体→ケラバ水切エンドの順序で施工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P20を参照してください。

○唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

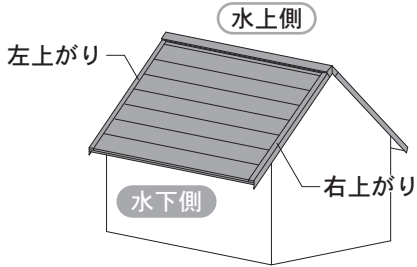
- 本体の加工方法は、P18を参照してください。
- 本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。

- ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドをケラバ水切に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2カ所留め付けてください。
- ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

各部の納まり

事故防止のため  
 取り扱いのお願い  
 アイジールーフを美しく保つために  
 アイジールーフ適用地域一覧  
 施工に必要な工具と材料  
 本体規格  
 部材規格  
 認定関係  
 施工の手順  
 下地の確認  
 本体の施工とポイント  
 各部の納まり  
 積算方法

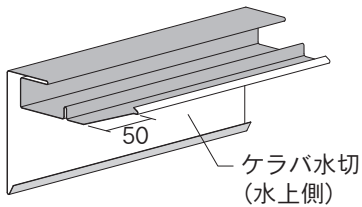
ケラバ水切同士のつなぎ方



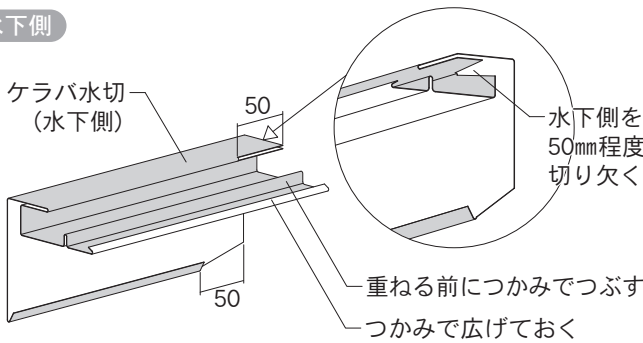
○ケラバ水切同士をつなぐ際は、50mm程度の切り欠き加工をしてください。  
 ○施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。

左上がりの加工

水上側

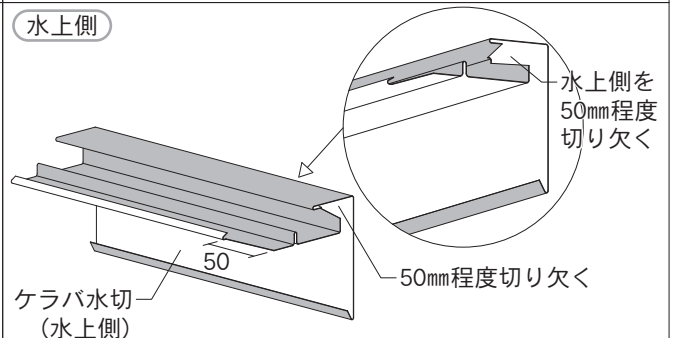


水下側

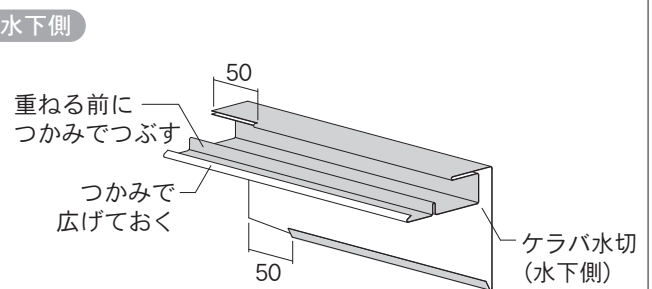


右上がりの加工

水上側

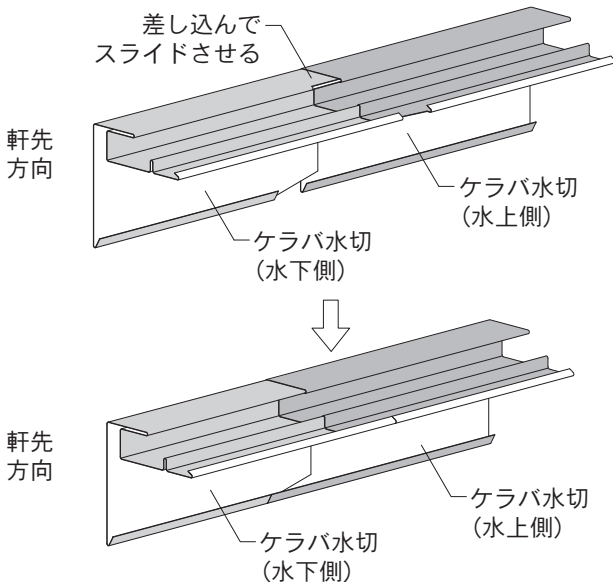


水下側



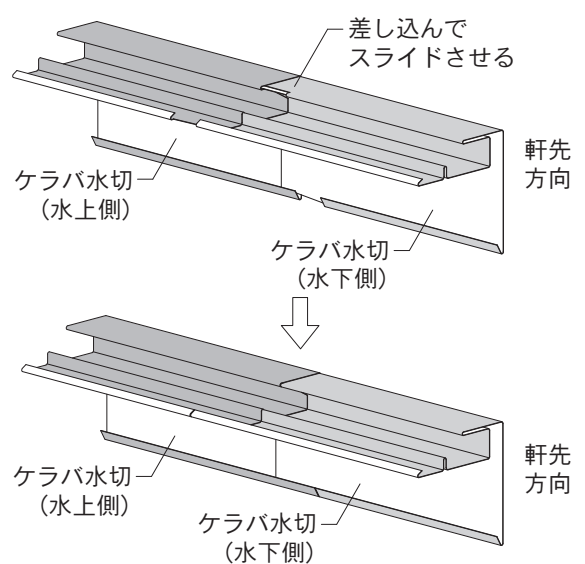
左上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



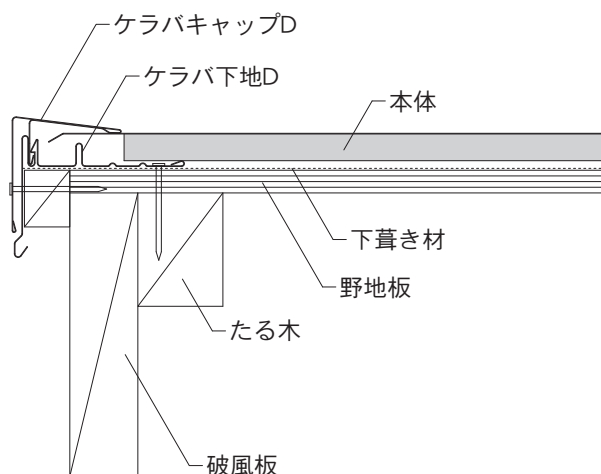
右上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



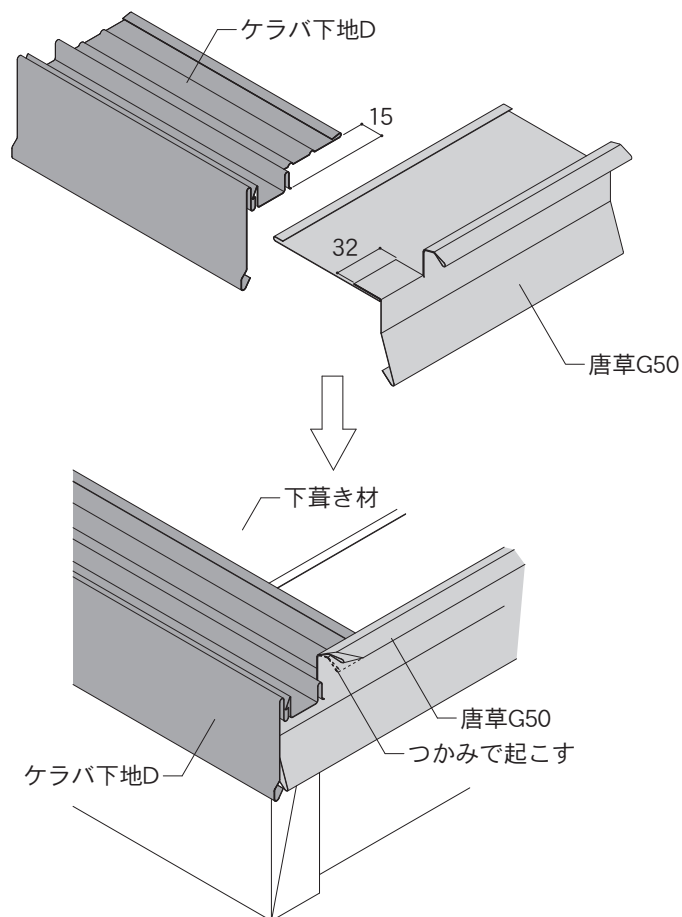
○ケラバの納まり② 〈ケラバキャップD・ケラバ下地D〉

納まり図



○ケラバキャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

施工手順



○唐草G50とケラバ下地Dは、左図のように切り欠いて組み合わせてください。

○唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

## 各部の納まり

40  
5  
10  
切断  
折り曲げる  
本体  
断熱材  
を取り除く  
35  
10  
切り欠く

折り曲げる  
本体

○カッターとスクレーパーを使用し、断熱材を40mm程度取り除いてください。  
○かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

○本体一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ下地DのAの部分に必ずのせてください。

ケラバ下地D  
本体  
唐草G50

ケラバキャップD  
ケラバ下地D  
唐草G50

くぎ打ち  
本体  
ケラバ下地D  
ケラバキャップD  
唐草G50

○本体の一段目に施工するケラバキャップDの折り返し部分は、ケラバ下地Dの側面に差し込んでください。  
○ケラバキャップDを差し込んで、くぎ打ちしてください。  
○ケラバキャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

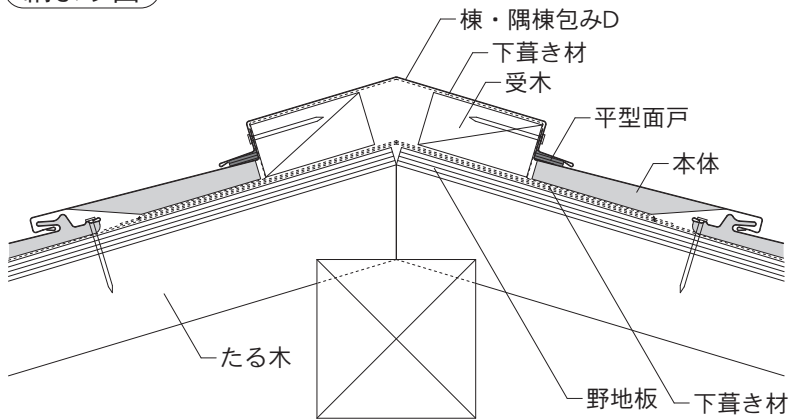
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

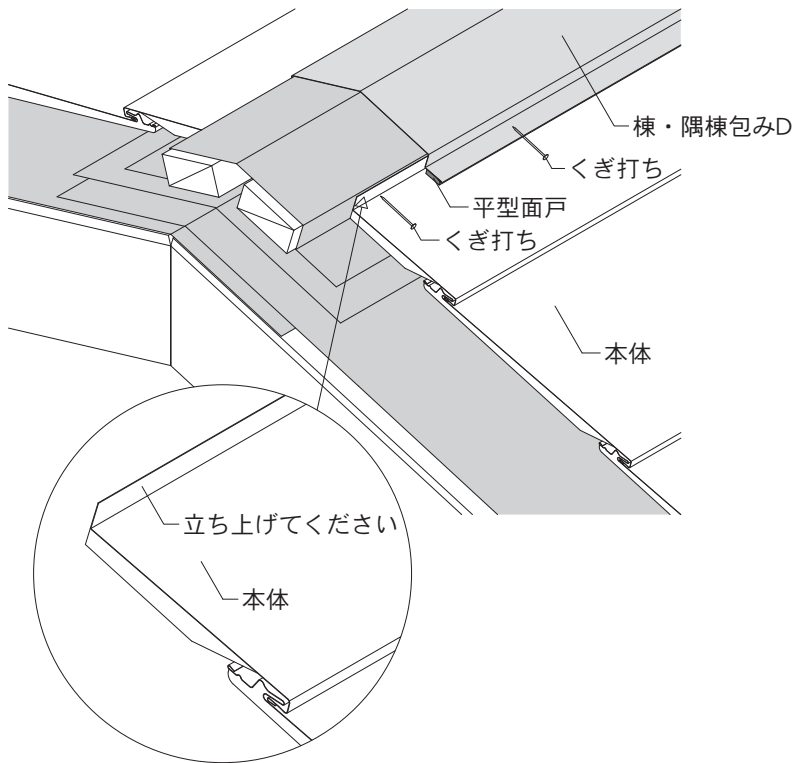
○棟の納まり① <棟・隅棟包みD>

納まり図

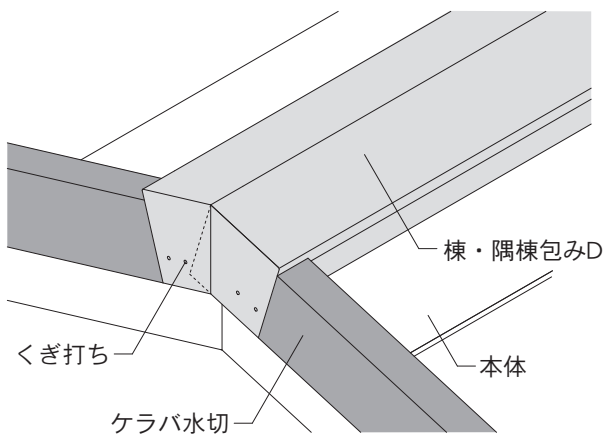


- 受木の勾配に合わせ、高さ36~45mm、幅60~80mmを選定してください。幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

施工手順 1



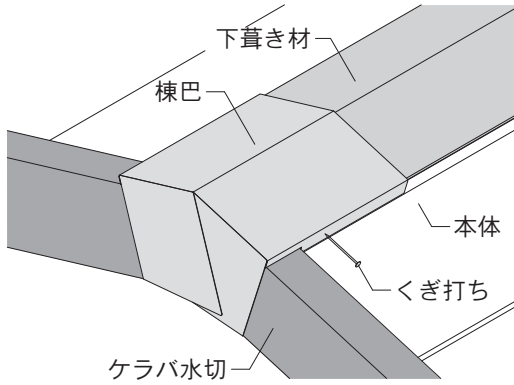
- 受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。
- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを取り付け、ぐぎ打ちしてください。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。



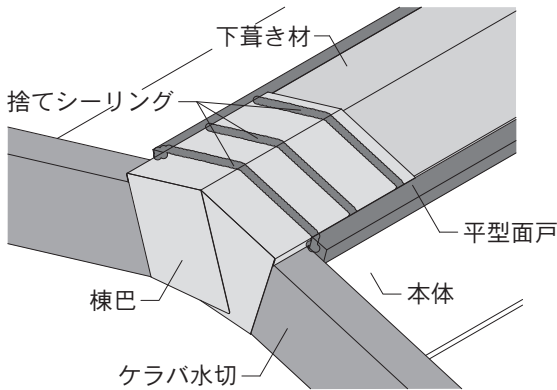
- 棟・隅棟包みDを左図のように加工して納め、ぐぎ打ちしてください。
- 棟巴を併用する場合、加工が不要になり施工性が向上します。(P24参照)



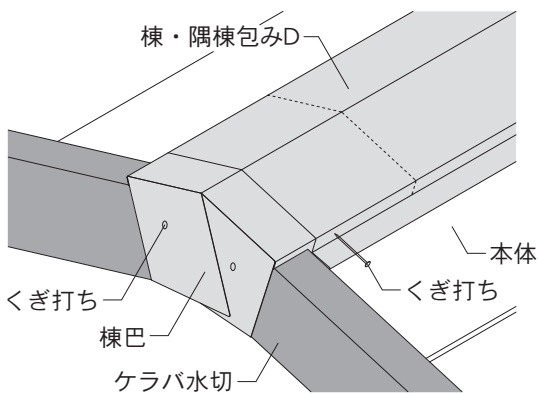
【施工手順 2】 〈棟巴を併用する場合〉 スーパーガルテクト・スーパーガルテクトCのみの仕様です。



○棟巴は、ケラバ部材の幅や勾配に合わせ切り欠いてください。棟巴はケラバ部材につかみ込んでください。



○平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工してください。



○棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。  
○平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

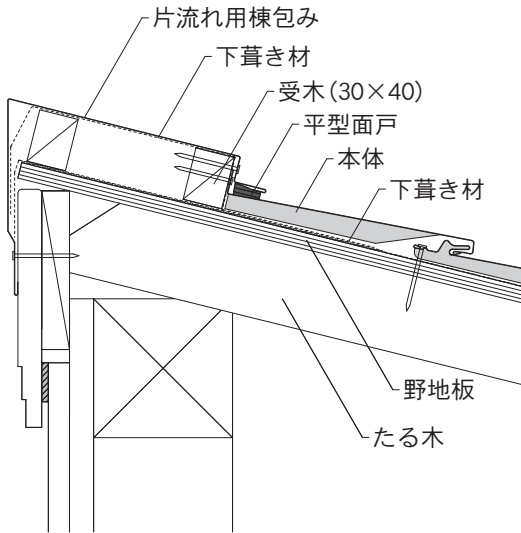
本体の施工とポイント

各部の納まり

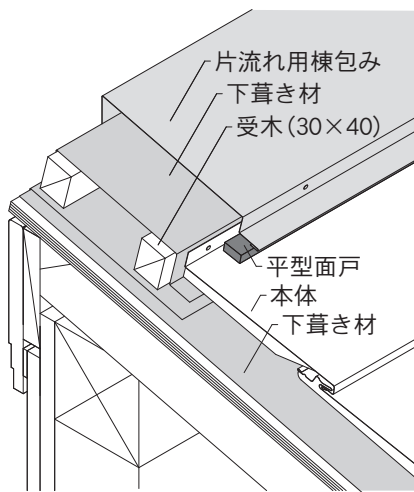
積算方法

○棟の納まり② 〈片流れ用棟包み〉

納まり図

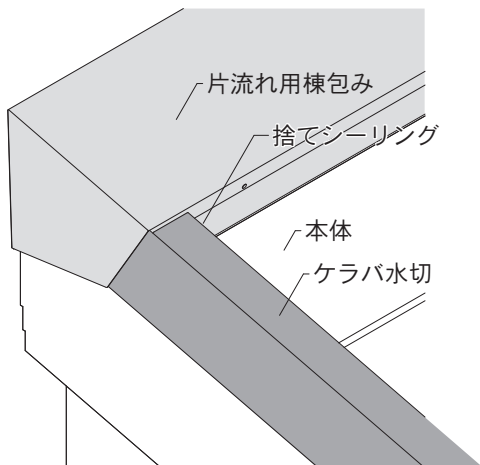


施工手順



○受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。

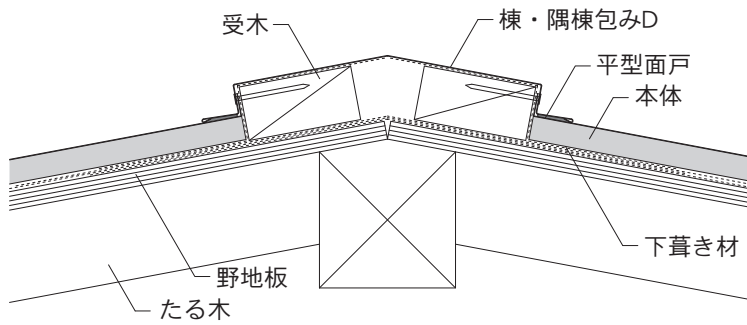
○片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。



○片流れ用棟包みの端部は、左図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。

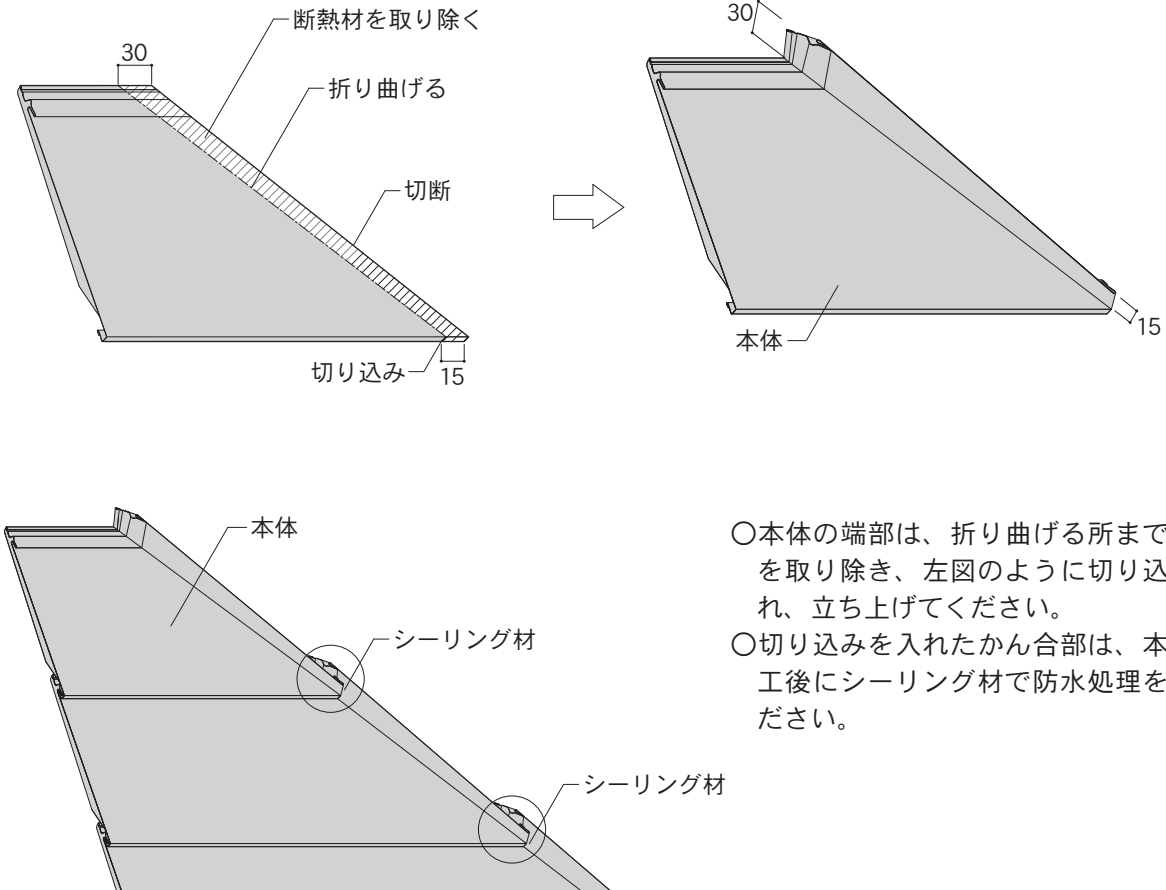
○隅棟の納まり① 〈棟・隅棟包みD〉

納まり図



- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを折り曲げて取り付け、くぎ打ちしてください。
- 棟・隅棟包みDの中に納める本体の端部は立ち上げてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

施工手順



- 本体の端部は、折り曲げる所まで断熱材を取り除き、左図のように切り込みを入れ、立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

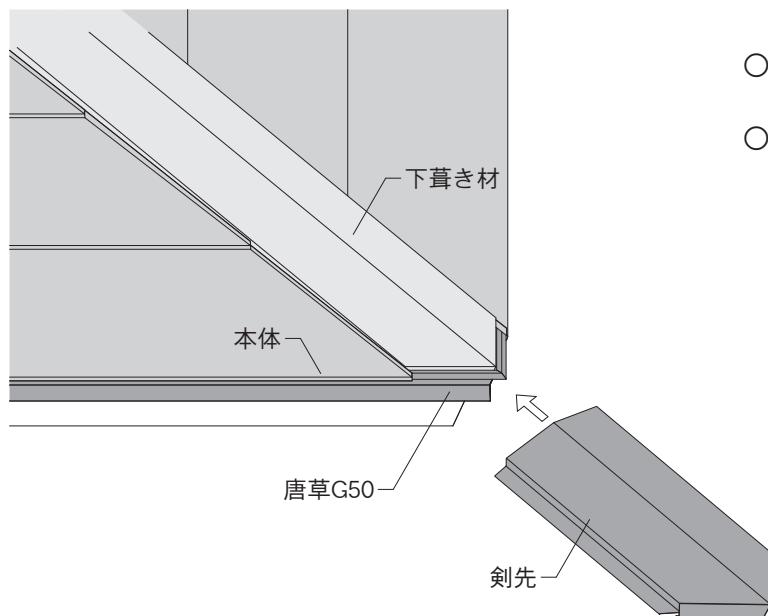
施工の手順

下地の確認

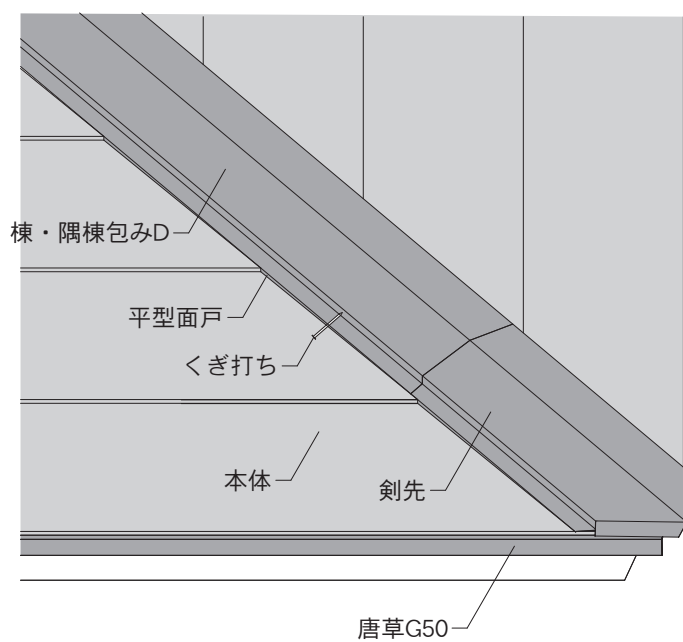
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法



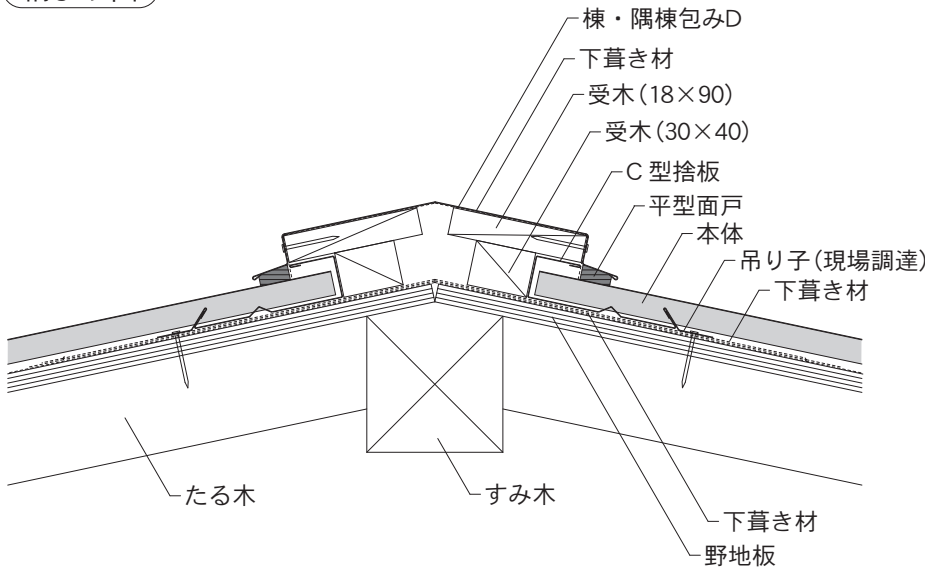
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねて施工してください。
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。



- 剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

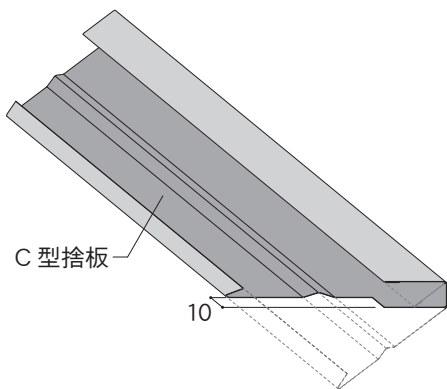
○隅棟の納まり② 〈棟・隅棟包みD・C型捨板〉

納まり図

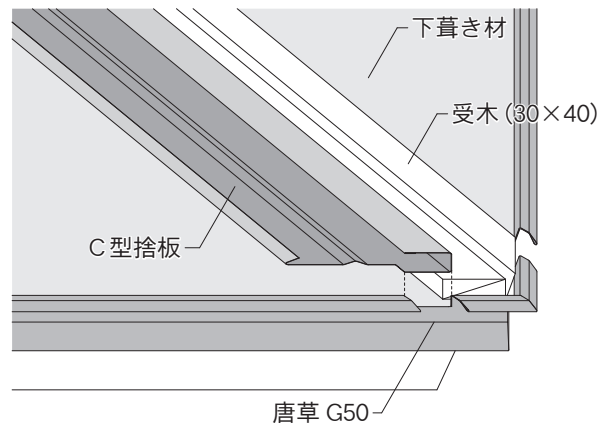


○C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。

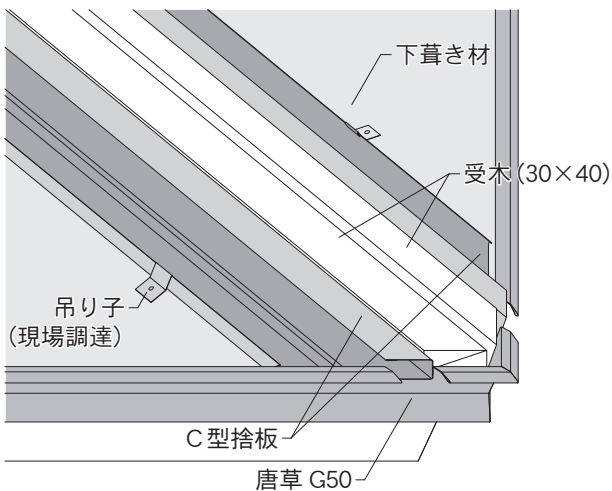
施工手順



○勾配に合わせてC型捨板を切断し、図のように10mm程度切り欠いてください。



○C型捨板の切り欠き部分に合わせ、唐草G50を切り欠いてください。



○唐草G50の切り欠いた部分にC型捨板を合わせ、10mm程度唐草G50の上に出してください。  
○C型捨板は、吊り子（現場調達）を使用し留め付けてください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

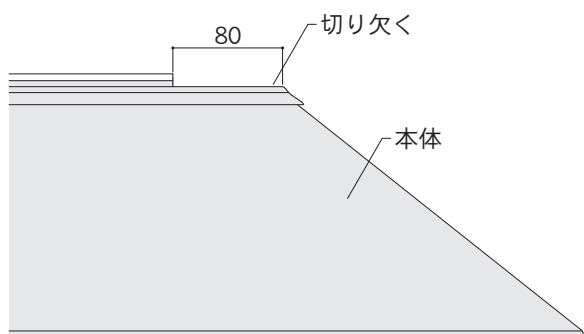
下地の確認

本体の施工とポイント

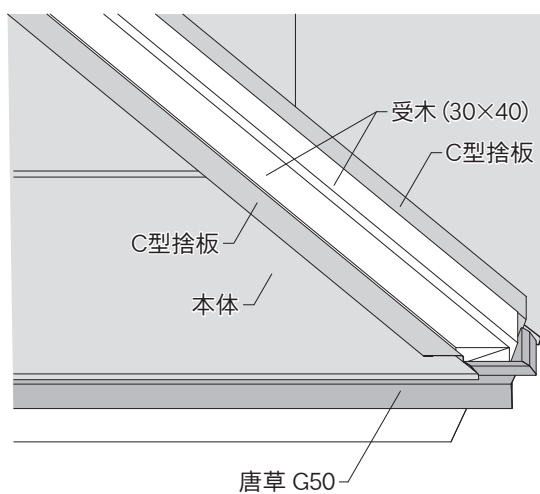
各部の納まり

積算方法

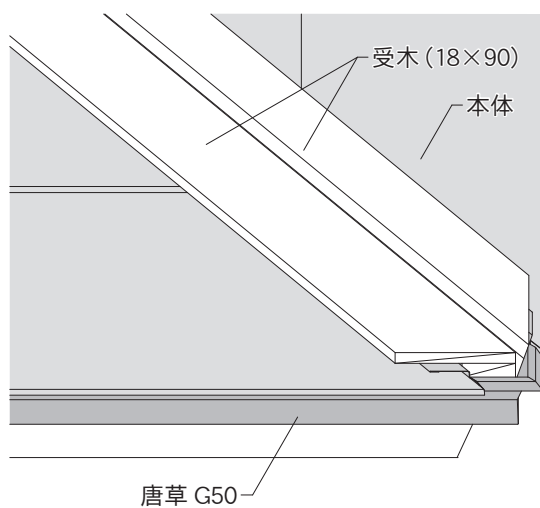
## 各部の納まり



○勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を80mm程度切り欠いてください。

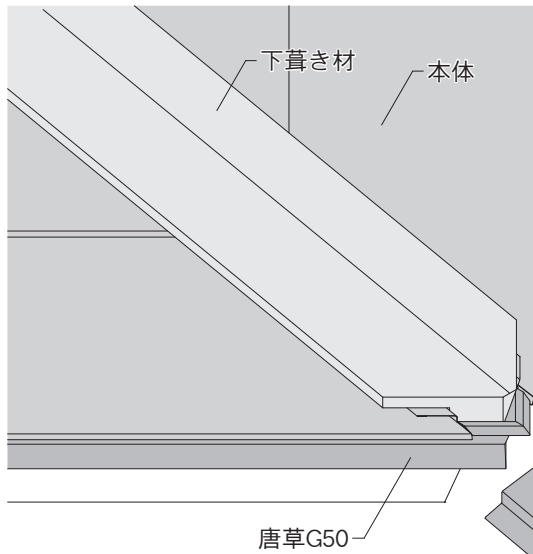


○本体は、C型捨板に差し込んで施工してください。

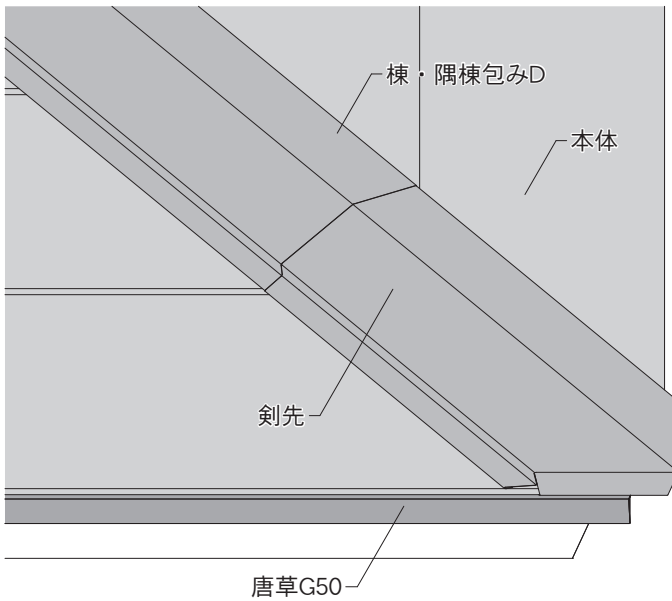
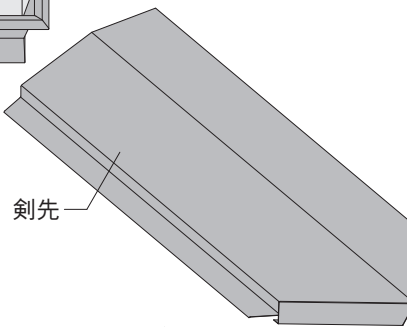


○本体を施工した後、受木 (18×90) を軒先に合わせ施工してください。

各部の納まり

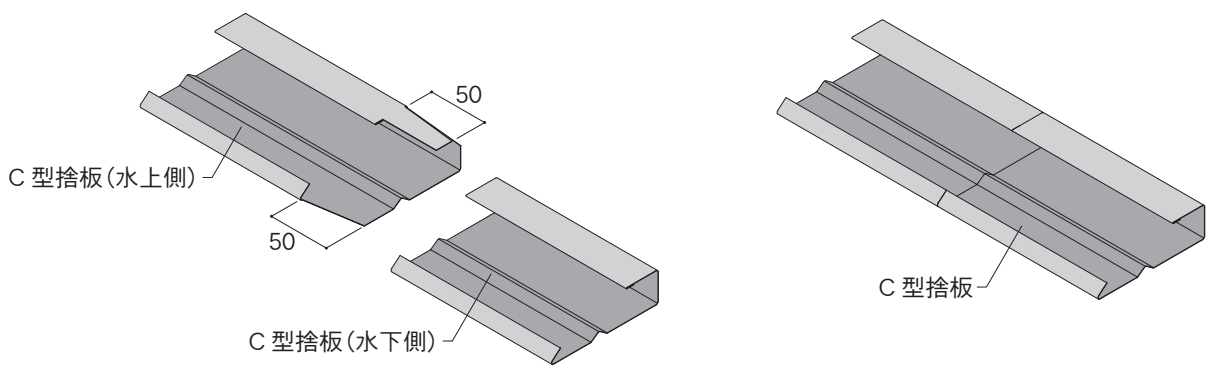


- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねてください
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。



- 剣先と、棟・隅棟包みDの重ね代は、150mm以上とり捨てシーリングを施工し重ねてください。

C型捨板のつなぎ方

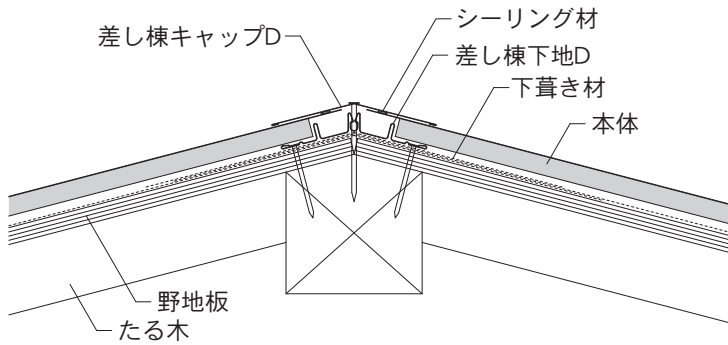


事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法



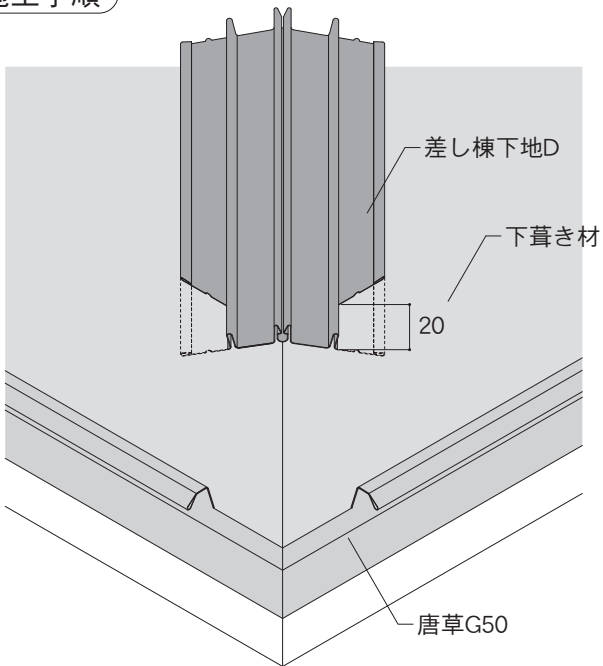
○隅棟の納まり③ 〈差し棟キャップD・差し棟下地D〉

納まり図

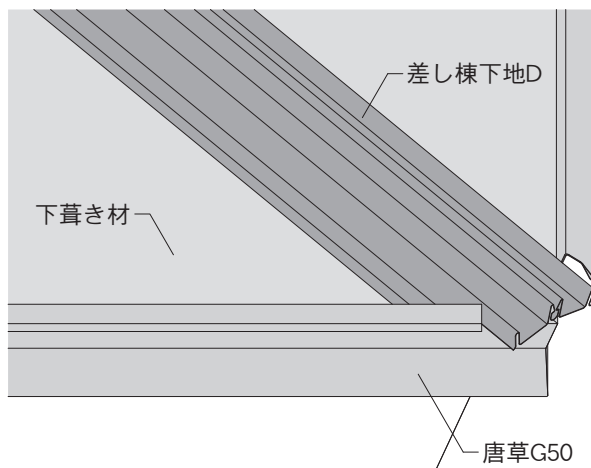


○差し棟キャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

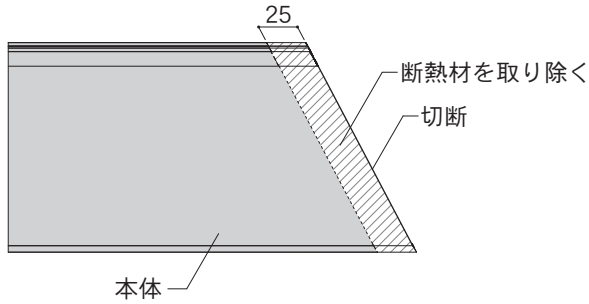
施工手順



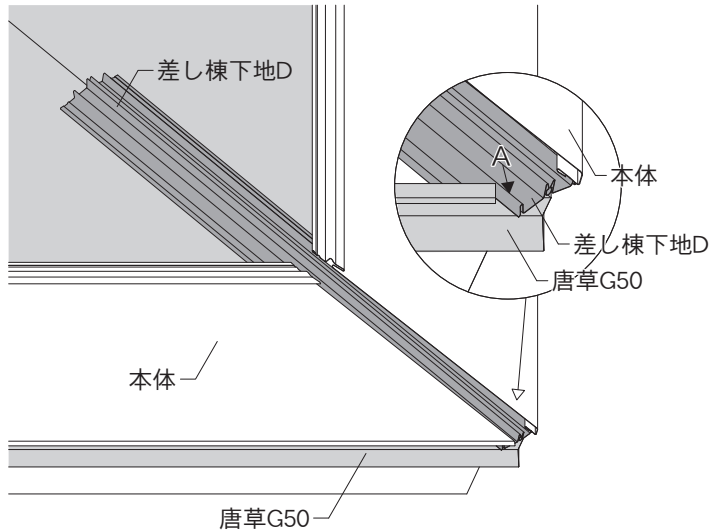
○左図のように、唐草G50と差し棟下地Dを切り欠いてください。  
差し棟下地Dの切り欠きは20mm程度を目安とし、差し棟キャップDからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。



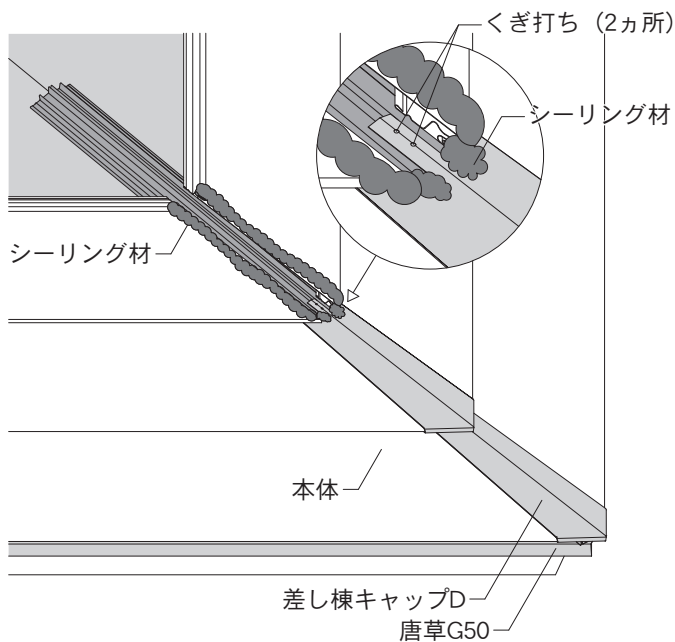
各部の納まり



○カッターとスクレーパーを使用し、断熱材を25mm程度取り除いてください。



○本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、差し棟下地DのAの部分に必ずのせてください。



○左図のように、捨てシーリングを施工してください。差し棟キャップDを下地に留め付けてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

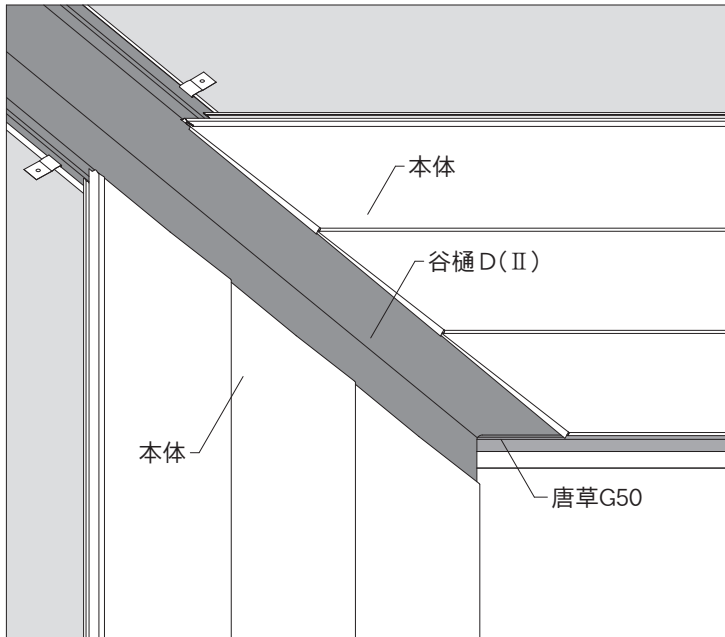
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

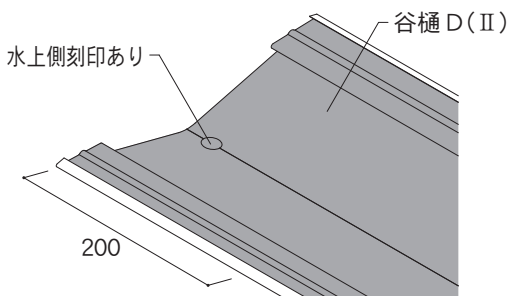


各部の納まり

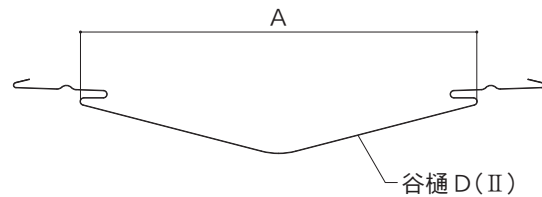


○本体は、谷樋D(II)のハゼに引っかけて施工してください。

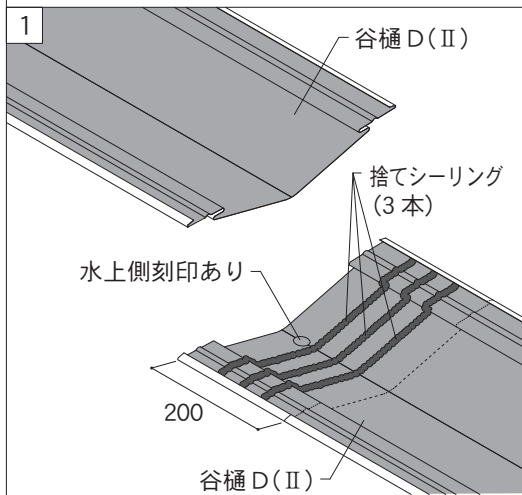
谷樋D(II) 同士のつなぎ方



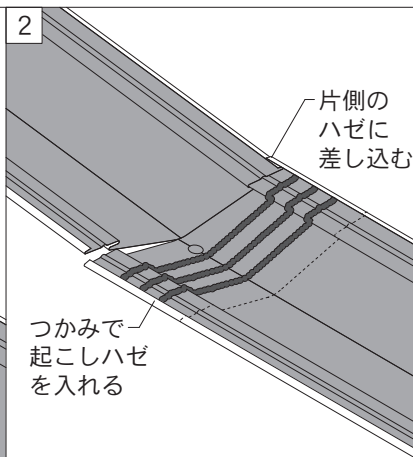
○谷樋D(II)は、刻印がある方を水上側にして施工してください。



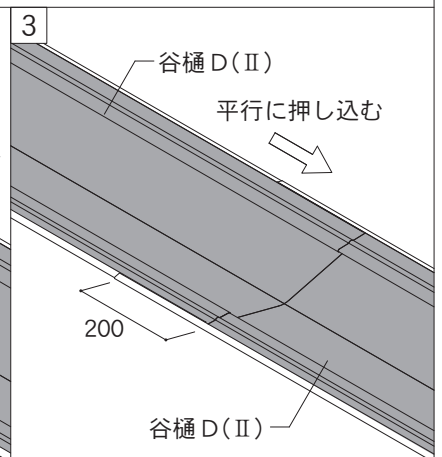
○谷樋D(II)同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある側は、Aの部分が広がっており、つなぎやすくなっています。



○谷樋D(II)は、刻印がある方に、φ8mm程度(鉛筆の太さ程度)の捨てシーリングを3本施工してください。



○片側のハゼを入れてから、もう片方のハゼを入れます。



○はみ出した捨てシーリングは、除去してください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

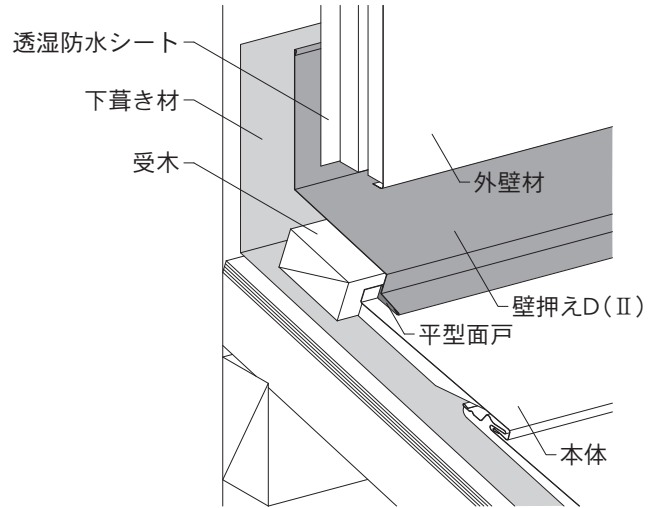
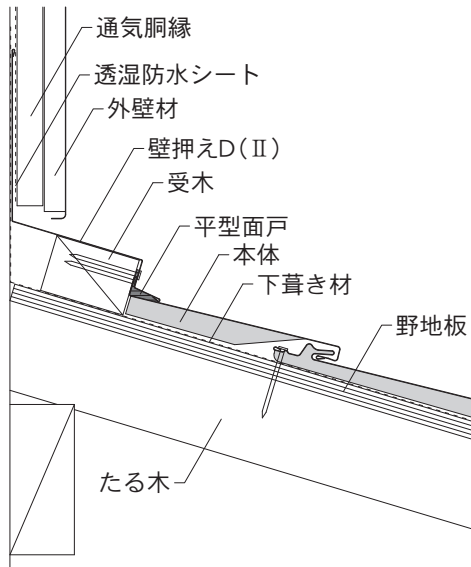
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

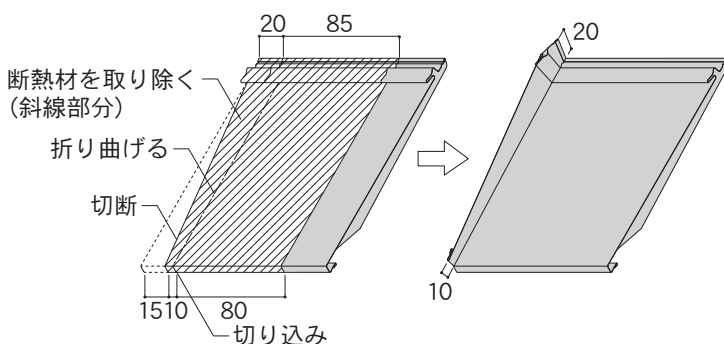
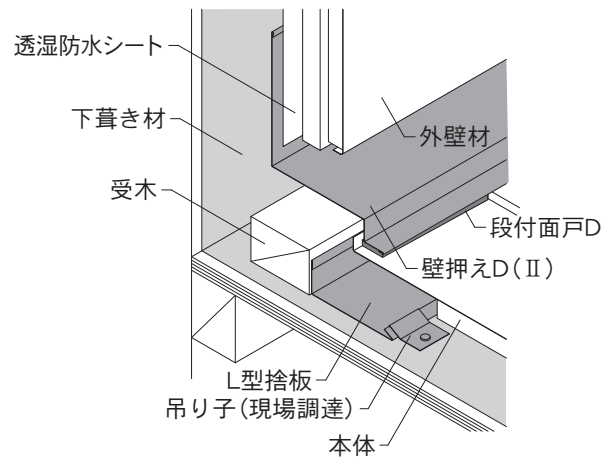
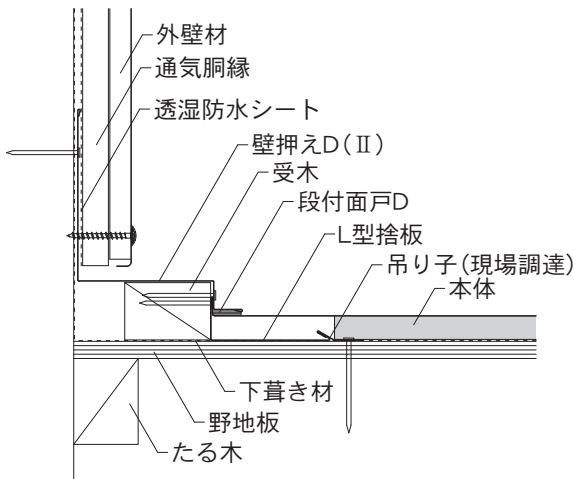
○壁との納まり①

〈流れと垂直な壁との納まり〉



- 壁押えD(II) 内に納める本体の端部は、不要な部分は切り取り、立ち上げてください。
- 本体立ち上げ部の受木の高さは、立ち上げの高さにあわせて調整してください。
- 平型面戸は、半分以上圧縮して施工してください。

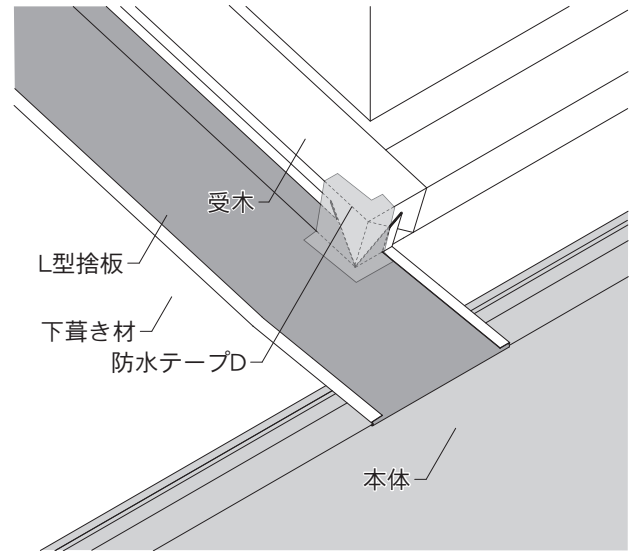
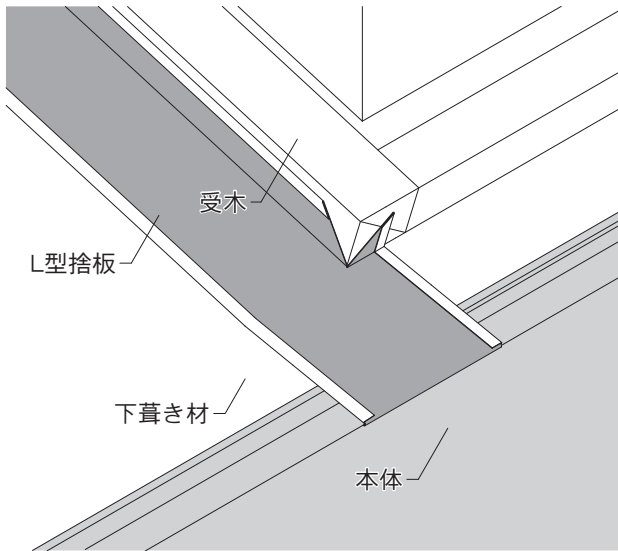
〈流れと平行な壁との納まり〉



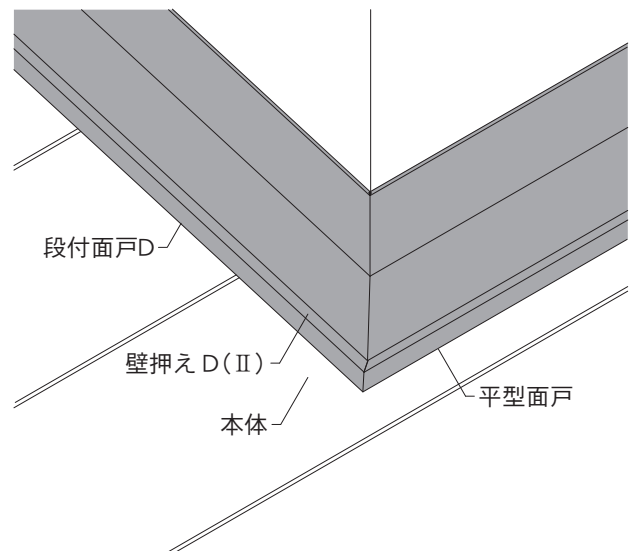
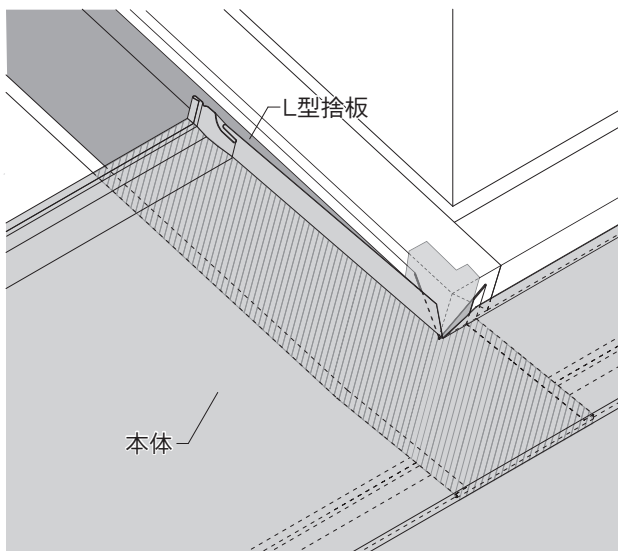
- 本体の端部は、断熱材を取り除き立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。
- 段付面戸Dは、壁押えD(II) と本体の間に入れてください。
- 受木の高さは36~45mmとし、幅は60~80mmを選定してください。幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

## 各部の納まり

### 〈コーナー部分の壁との納まり〉



- L型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープDを施工してください。



- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L捨板の幅に合わせて断熱材（斜線部分）を取り除いてください。
- 本体の端部を立ち上げて施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

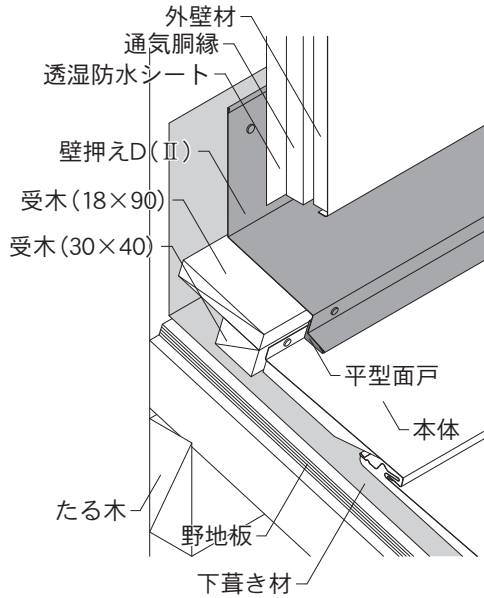
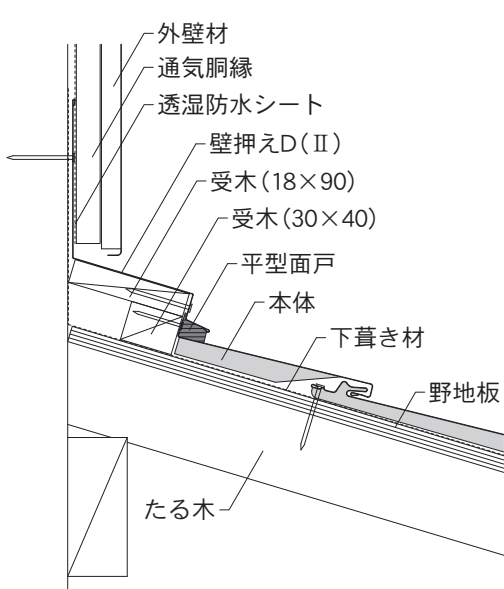
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

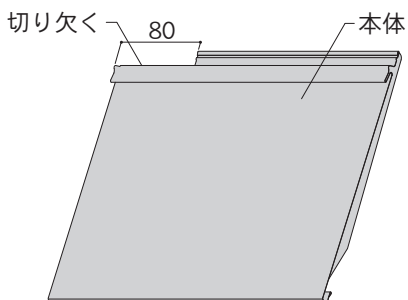
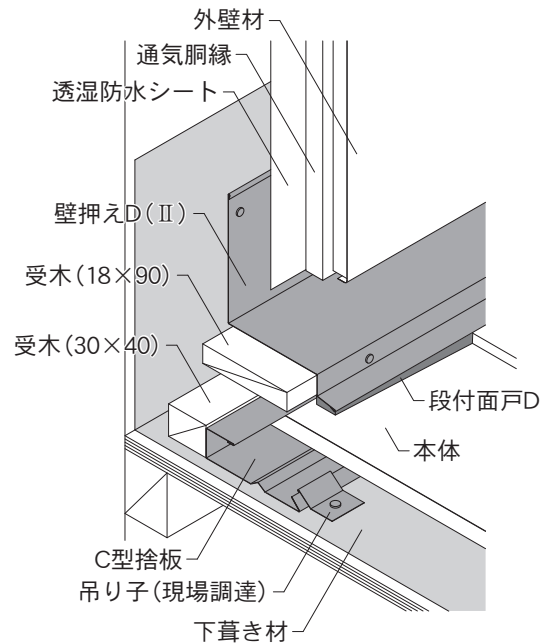
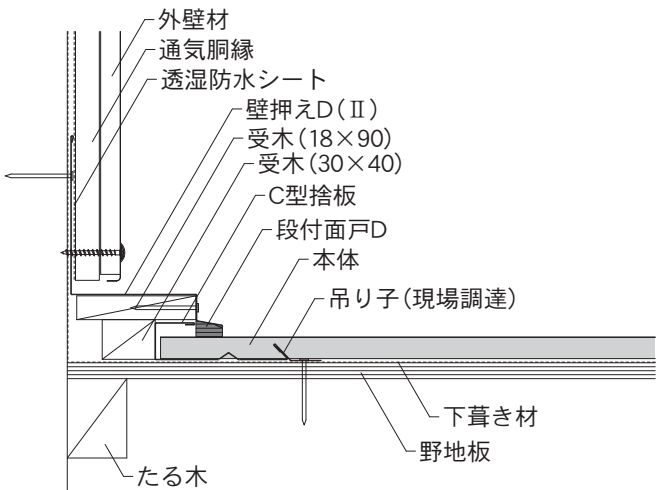
○壁との納まり②

〈流れと垂直な壁との納まり〉



- 壁押えD(II) 内に納める本体の端部は、不要な部分は切り取り、立ち上げてください。
- 本体立ち上げ部の受木の高さは、立ち上げの高さにあわせて調整してください。
- 平型面戸は、半分以上圧縮して施工してください。

〈流れと平行な壁との納まり〉

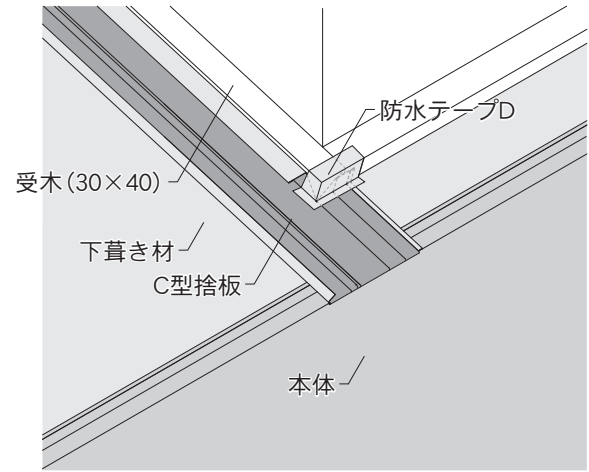
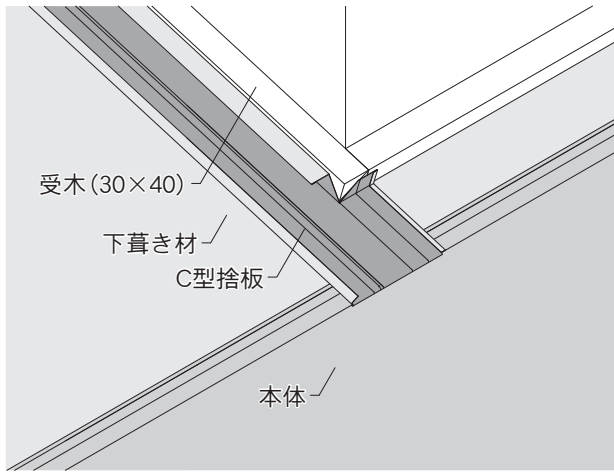


- C型捨板は吊り子を使用し、留め付けてください。
- 流れと垂直な壁との取り合いがある場合は、受木のサイズを合わせてください。
- 本体の端部のくぎ打ち部は、80mm程度切断してください。

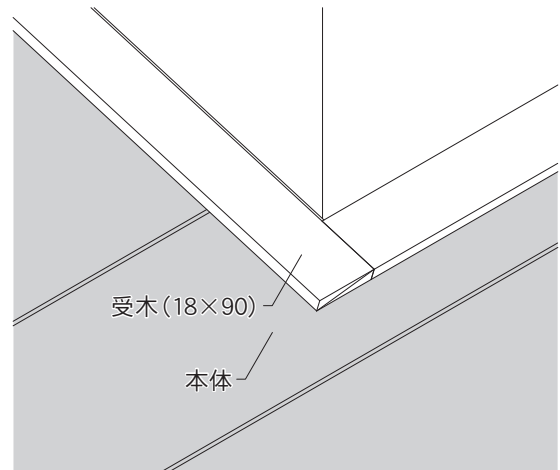
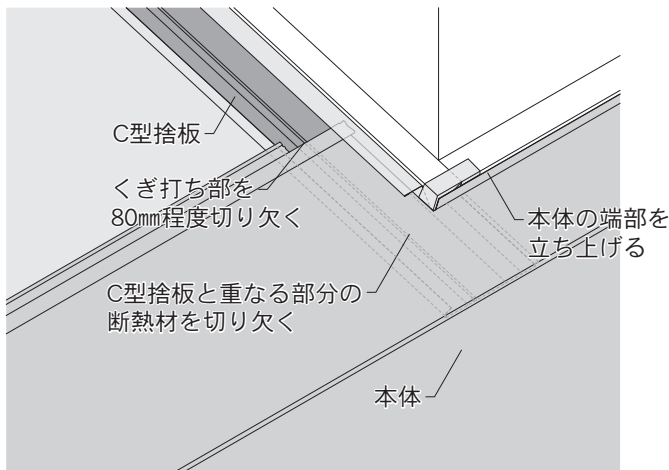


## 各部の納まり

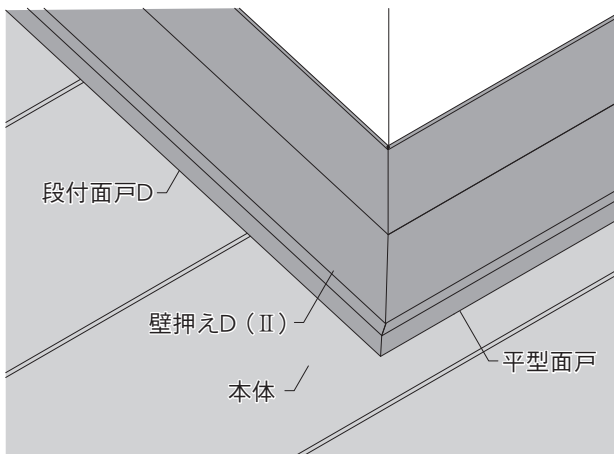
### 〈コーナー部分の壁との納まり〉



- C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープDを施工してください。



- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。



- 段付面戸D、平型面戸を本体に貼り付けてから、壁押えD (II)を施工してください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

## ○換気棟の納まりについて

### 適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～10寸に施工できます。  
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～6寸に施工できます。

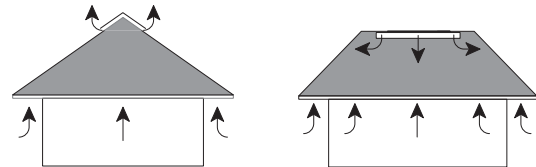
### 有効開口面積

	有効開口面積 (m <sup>2</sup> /セット)	適応天井面積 (m <sup>2</sup> /セット)
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

### 各換気棟の設置基準について

住宅金融支援機構 木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。  
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積に応じて必要長さを算出してください。

軒裏吸気孔：1/900以上  
棟排気孔：1/1,600以上



### 商品図

商品名	商品図	換気棟／換気棟L 併用商品	
		商品名	商品図
換気棟		換気棟用エンドキャップ (別売)	
換気棟L			

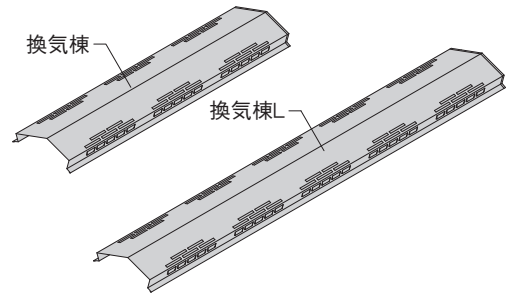
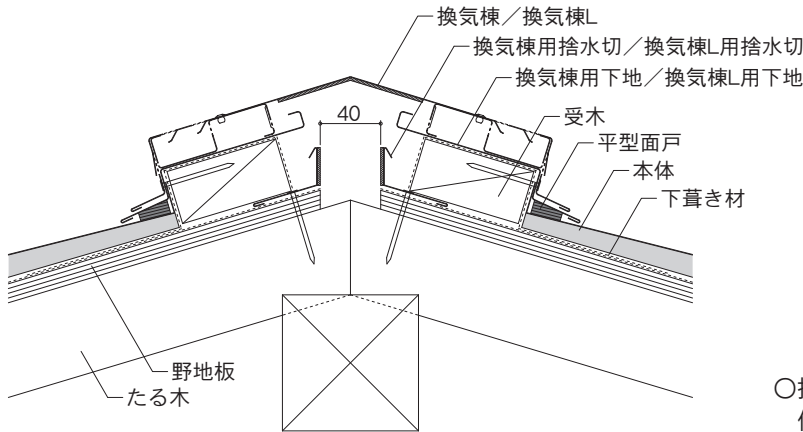
・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップ併用してください。

商品名	商品図	片流れ用換気棟 併用商品	
		商品名	商品図
片流れ用換気棟		片流れ用棟包み (別売)	
		片流れ換気用水切 (別売)	

・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。  
・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

○換気棟の納まり① 〈換気棟／換気棟L〉

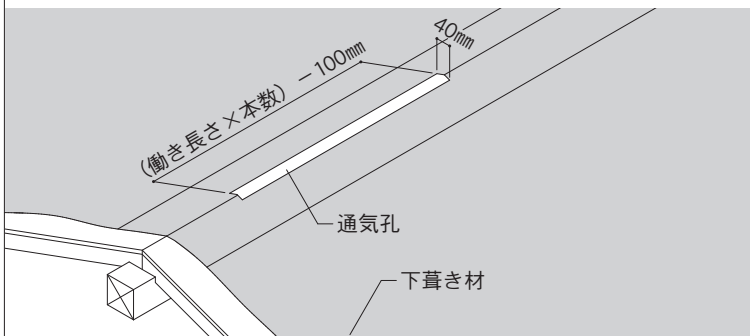
納まり図



○換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。

施工手順 〈図は換気棟です。換気棟Lも同様に施工いただけます〉

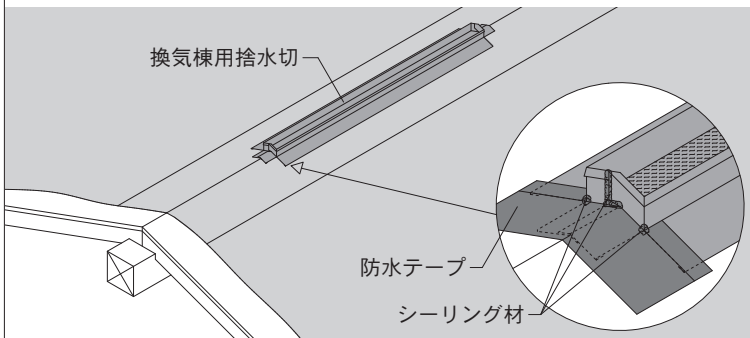
1. 開口をあける



○棟部に左図の寸法で開口を設けてください。

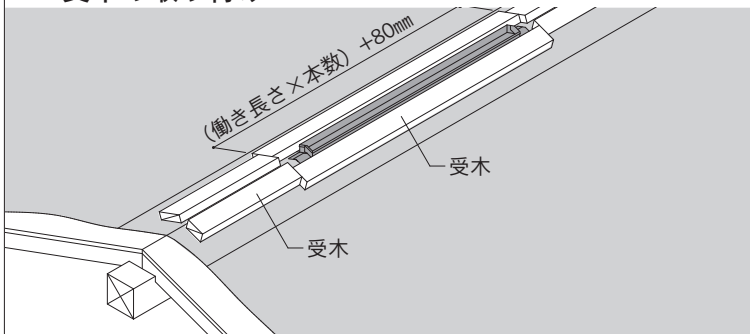
	換気棟	換気棟L
働き長さ (mm)	1,050	1,750
商品長さ (mm)	1,130	1,830
対応勾配 (寸)	2.5～10	

2. 換気棟用捨水切の施工



- 開口に合わせて換気棟用捨水切を取り付けてください。
- 換気棟用捨水切の加工部はシーリング材で防水処理をしてください。
- 換気棟用捨水切と下葺き材とのすき間は防水テープDで防水処理をしてください。

3. 受木の取り付け



- 棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選んでください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 換気棟取り付け部の受木の長さは左図の寸法で取り付けてください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

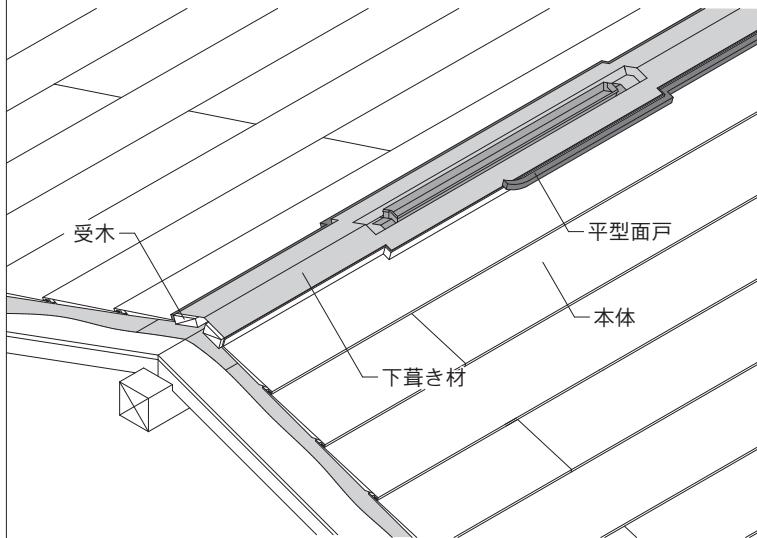
下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

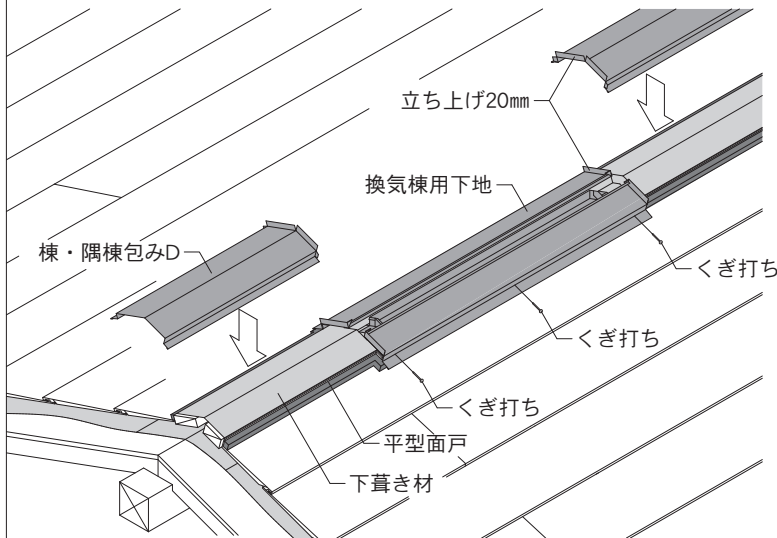
積算方法

#### 4. 下葺き材と平型面戸の施工



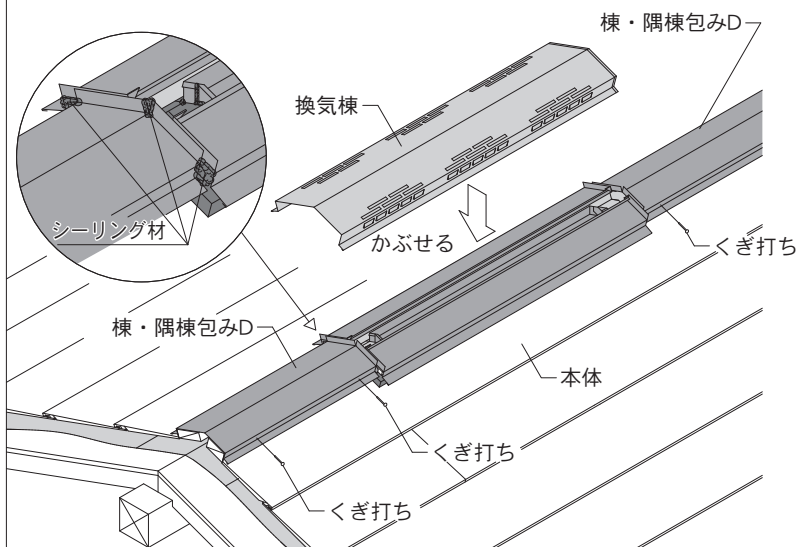
- 受木の上の下葺き材を張ってください。
- 受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。

#### 5. 換気棟用下地と棟・隅棟包みDの施工



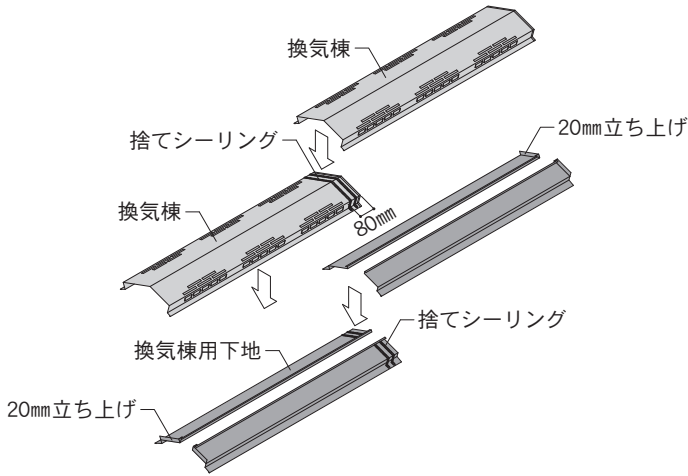
- 換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20mm立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。図は、換気棟で掲載しています。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

#### 6. 換気棟の施工



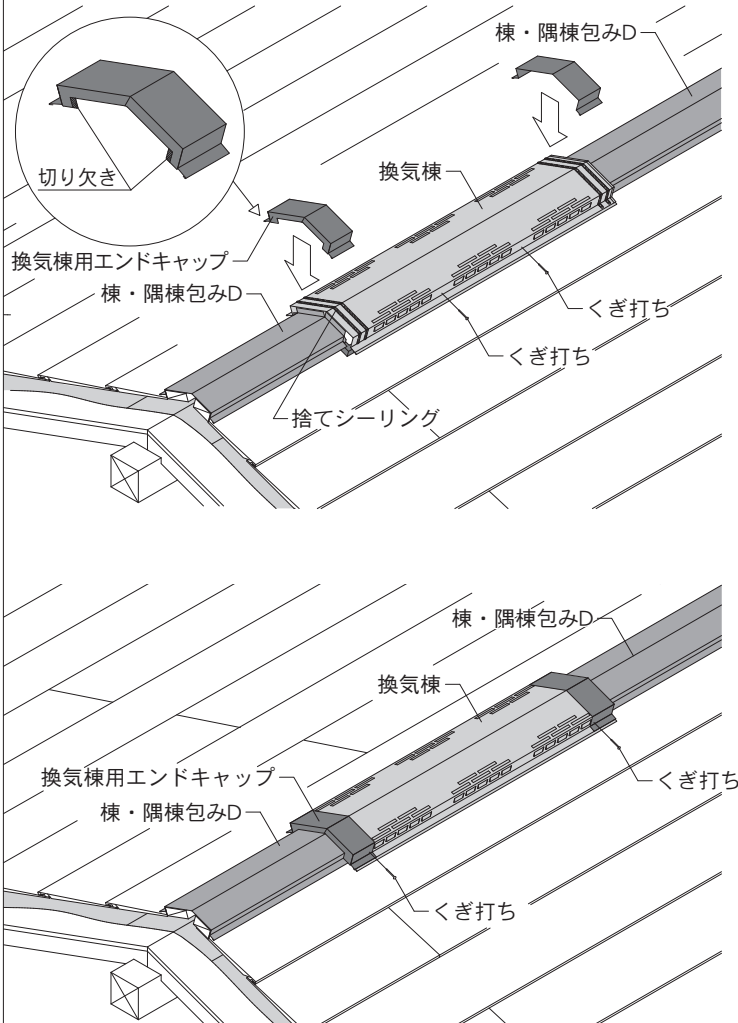
- 換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。

7. 連続施工時の加工方法



○換気棟を2本以上つなぐ場合は、左図のように捨てシーリングを施工し重ねてください。

8. 換気棟用エンドキャップの施工

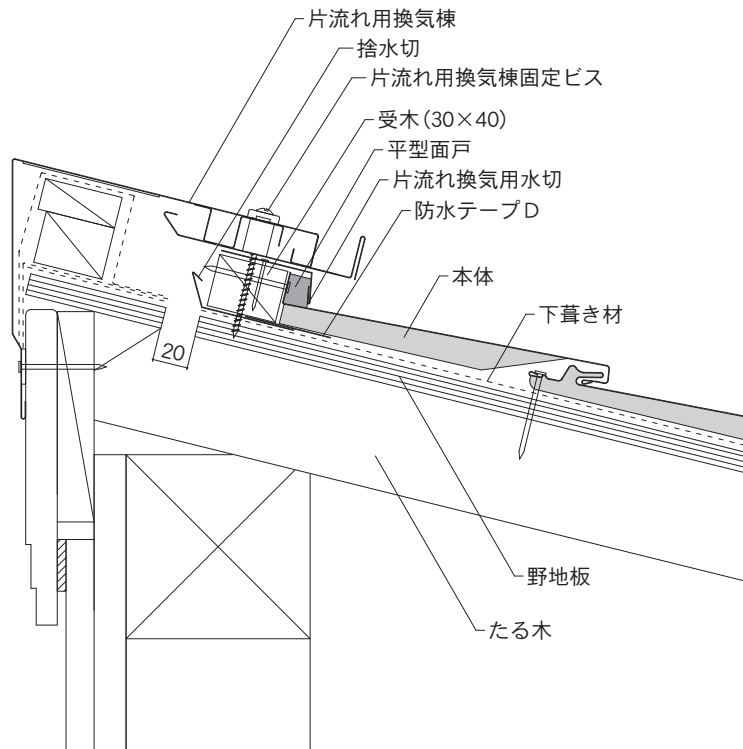


○換気棟用エンドキャップの取り付けの際は、左図の部分を勾配に合わせて切り欠いてください。

事故防止のため
取り扱い時のお願い
アイシールドーフを美しく保つために
アイシールドーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

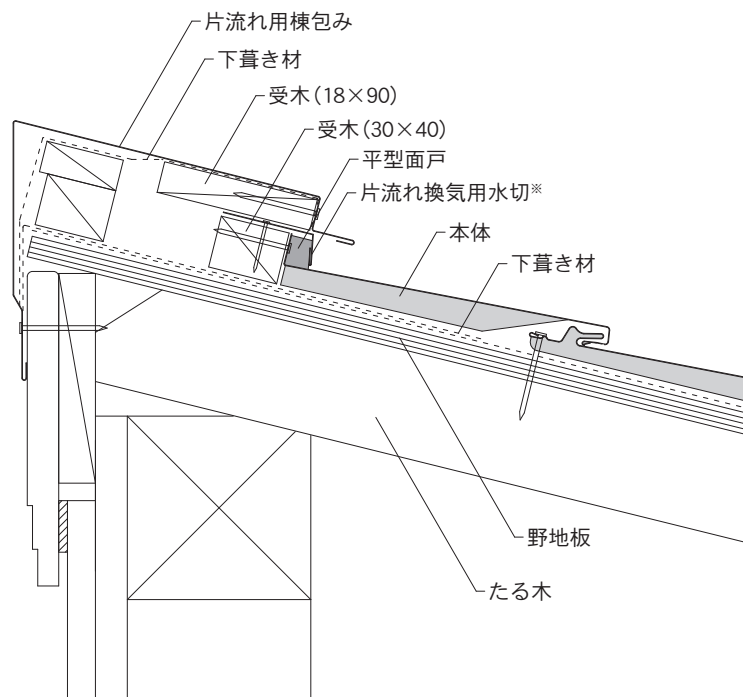
○換気棟の納まり② 〈片流れ用換気棟・片流れ用棟包み・片流れ換気用水切〉

納まり図



○片流れ用換気棟1セットには、片流れ換気用棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ換気棟とつなぐ場合

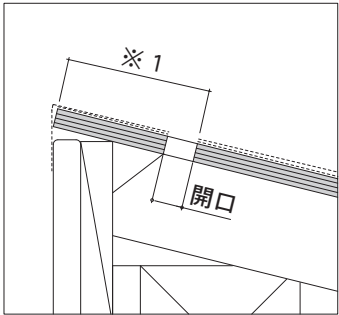


○片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。  
 ※片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

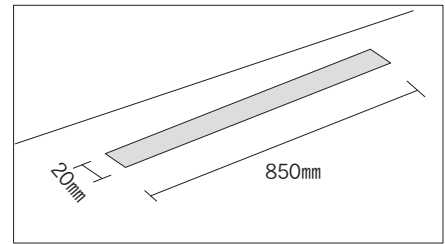
**施工手順** 〈屋根表面だけでなく小屋裏の構造も考慮に入れて取付位置を決めてください〉

**1. 開口をあける**

開口位置を決めます。(下図参照)

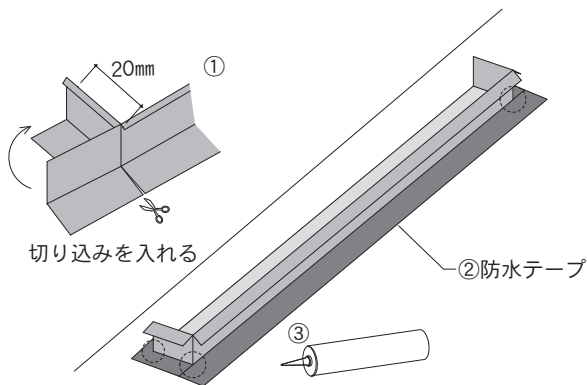


〈※1〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	99mm	4.5 寸	86mm
3 寸	95mm	5 寸	82mm
3.5 寸	93mm	5.5 寸	79mm
4 寸	89mm	6 寸	76mm



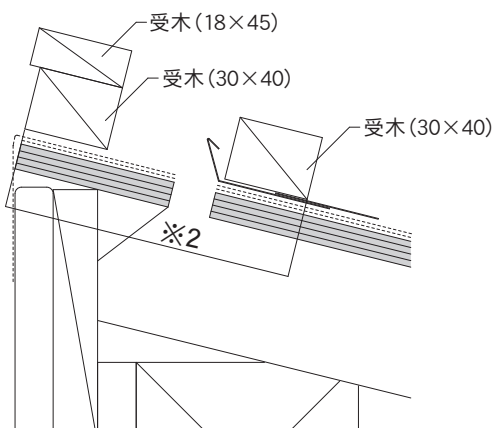
○決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。開口後、下葺き材を張ります。連続で施工する場合は、P45を参照してください。

**2. 捨水切の施工**



- ①捨水切は開口より両端20mm余幅をとっておきます。
- ②折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください。(図参照)
- ③ピンホールなどにはシーリング材を施工してください。

**3. 受木の取り付け**



受木を施工します。(図参照)  
※2の寸法は寸法対応表を確認してください。

〈※2〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	143mm	4.5 寸	130mm
3 寸	139mm	5 寸	126mm
3.5 寸	137mm	5.5 寸	123mm
4 寸	133mm	6 寸	120mm

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

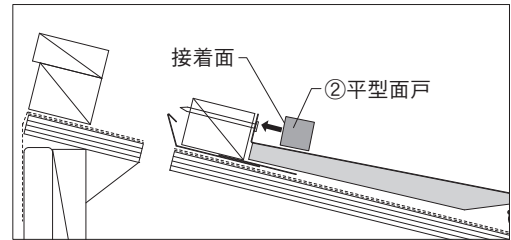
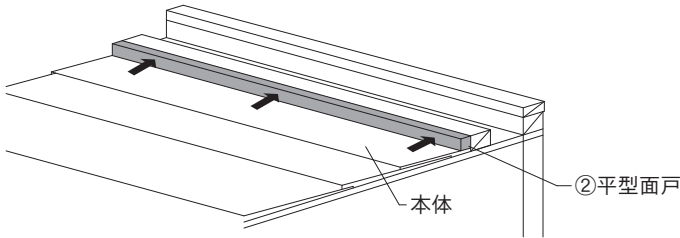
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

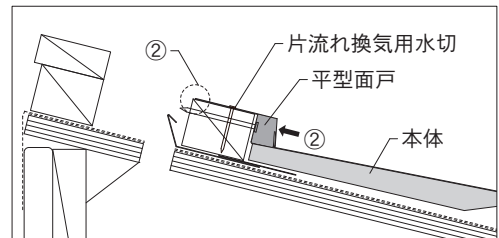
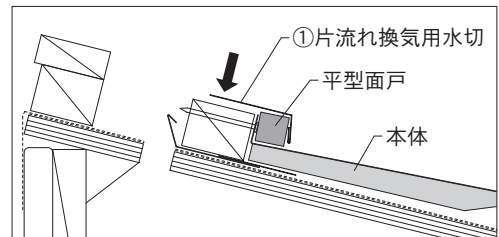
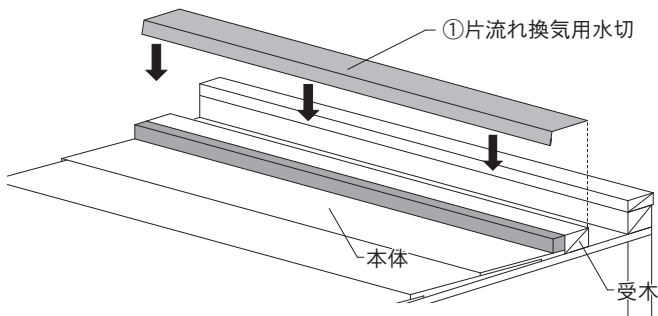


#### 4. 本体の施工と先端加工



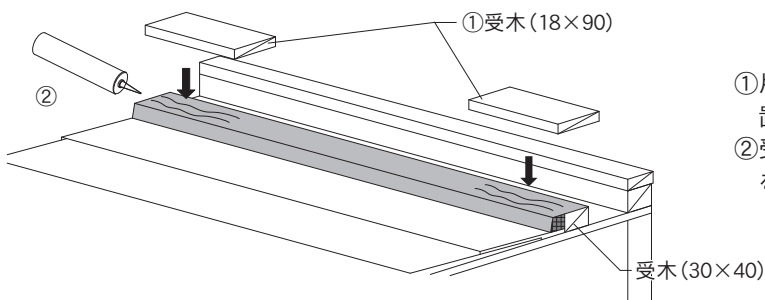
- ① 3で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
- ② 立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。

#### 5. 片流れ換気用水切の施工



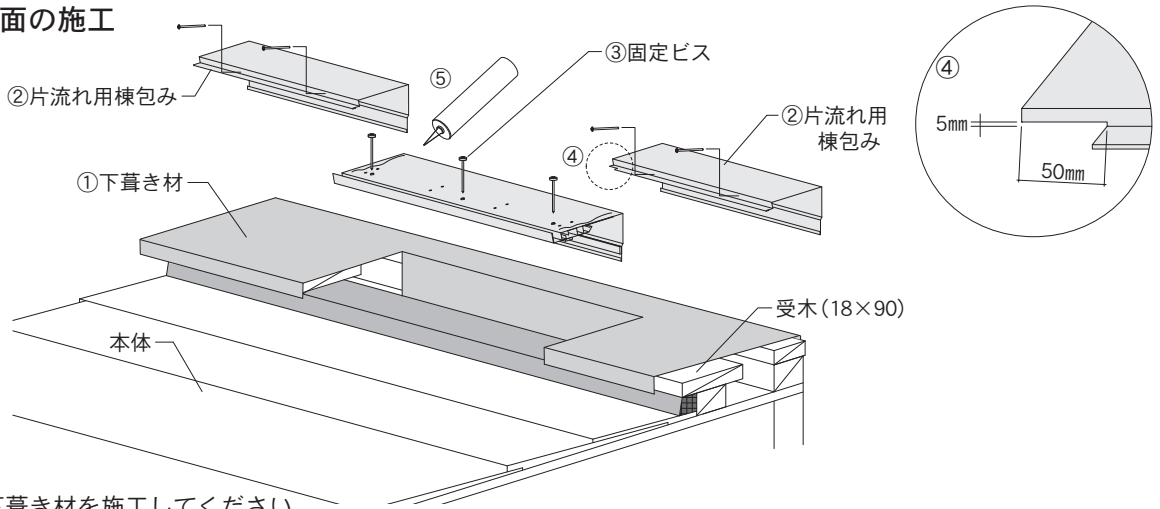
- ① 片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。  
片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください
- ② 平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。

#### 6. 受木 (18×90) の施工



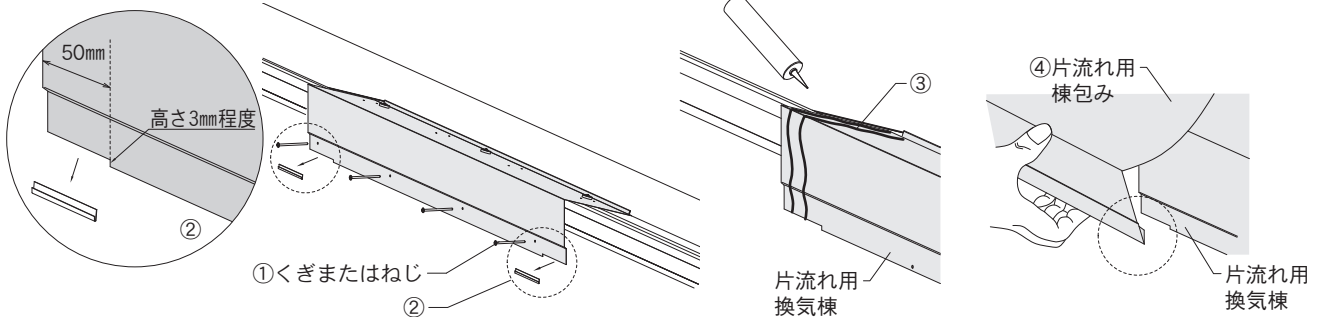
- ① 片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木(18×90)を置きます。
- ② 受木(18×90)を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。

7. 片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け  
7-1. 屋根面の施工



- ①受木の上に下葺き材を施工してください。
- ②上図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
- ③片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
- ④片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、右上の図を参考に重なる部分をあらかじめカットしてください。
- ⑤接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。

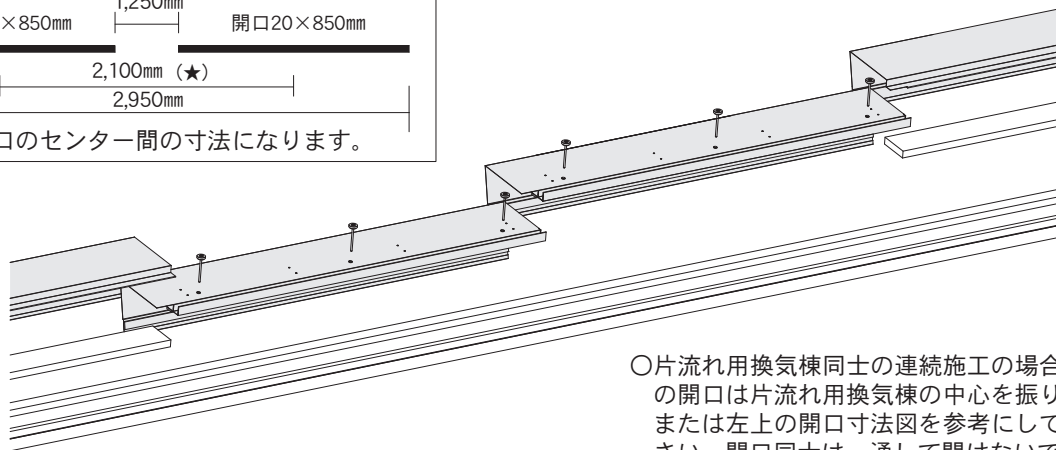
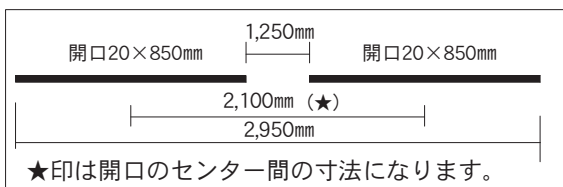
7-2. 壁面の施工



- ①壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
- ②片流れ用換気棟の重ね代は、下から3mm、幅50mm程度切り欠いてください。
- ③片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
- ④片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。

8. 連続施工時の開口間寸法

連続施工時のピッチ



○片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または左上の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

事故防止のため
取り扱い時のお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

## ○雪止めの納まり 〈雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプ〉

### ○雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け基準

#### ① 適用範囲

雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプは、一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります。

#### ② 1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ：L (m)

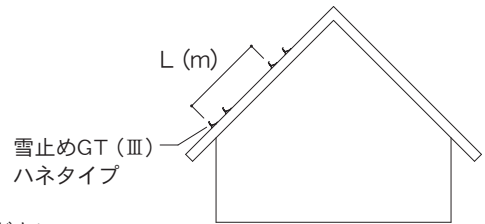
・積雪単位荷重：2 [kg/m<sup>2</sup>・cm]の場合

積雪量	勾配 (寸)						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10cm	20m <sup>※2</sup>	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20cm	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30cm	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m

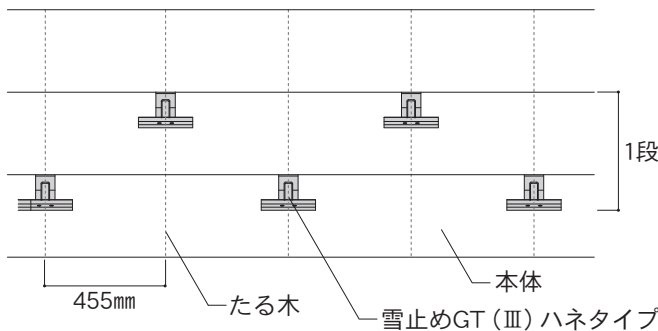
※1：3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。

※2：この値は、流れ長さの制限に合わせています。（P1参照）

- ・対象となる物件（地域）の積雪単位荷重を確認して、上の表より雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの必要段数を求めてください。  
必要段数＝屋根の流れ長さ÷1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
- ・屋根材の静止摩擦係数（ $\mu$ ）の値は0.05としています。
- ・上の表以外については、弊社にお問い合わせください。



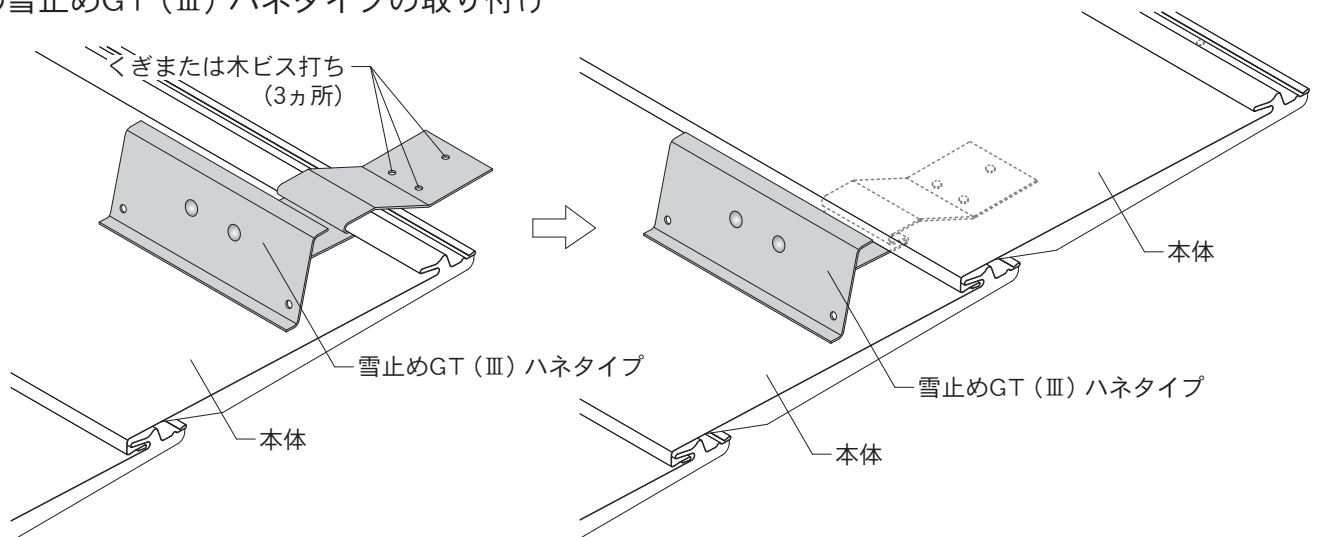
#### ③ 1段あたりの雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け配置図



- ・1段とは千鳥に2列（455mm間隔）取り付けることを意味します。
- ・表より求めた、必要段数の雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを施工してください。
- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠ 雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。

### ○雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け

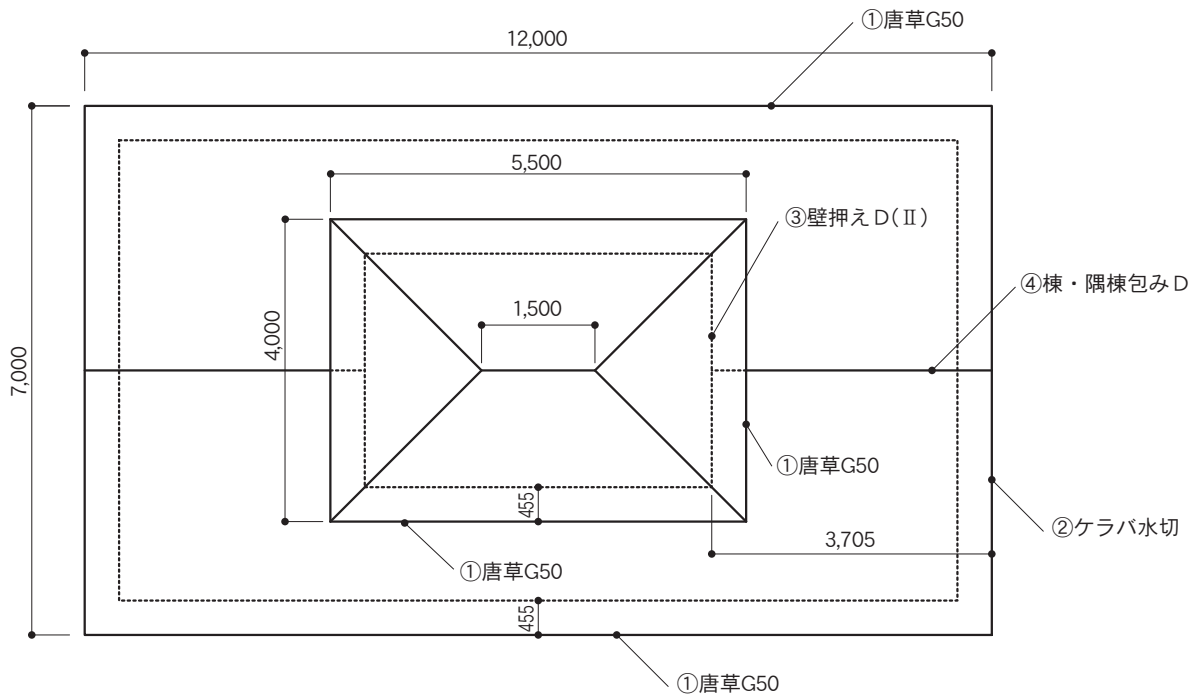


- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプをかん合部に合わせて、たる木にくぎまたは木ビスで取り付けてください。
- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプは先付けです。後付けはできません。

# 積算方法

## ○例 3.5寸勾配の場合

単位：mm



上図を例に算出しています。

### ①唐草G50

・軒の長さ=43,000mm 重ね幅=50mm の場合

$$\begin{aligned} & \text{軒の長さ} \div (\text{唐草G50 1本の長さ} - \text{重ね幅}) \\ & = 43,000 \div (2,727 - 50) = 16.06 \Rightarrow 17\text{本必要です。} \end{aligned}$$

(ロス分は含まれておりません)

### ②ケラバ水切

・ケラバの長さ=14,826mm 重ね幅=50mm の場合

$$\begin{aligned} & \text{ケラバの長さ} \div (\text{ケラバ水切1本の長さ} - \text{重ね幅}) \\ & = 14,826 \div (2,727 - 50) = 5.54 \Rightarrow 6\text{本必要です。} \end{aligned}$$

(ロス分は含まれておりません)

### ③壁押えD(II)

・壁との取り合い部=15,726mm 重ね幅=50mm 出隅加工幅=150mm の場合

$$\begin{aligned} & (\text{壁との取り合い部} + (\text{出隅加工幅} \times \text{出隅の数})) \div (\text{壁押えD(II) 1本の長さ} - \text{重ね幅}) \\ & = (15,726 + (150 \times 4)) \div (2,727 - 50) = 6.10 \Rightarrow 7\text{本必要です。} \end{aligned}$$

(ロス分は含まれておりません)

### ④棟・隅棟包みD

・棟・隅棟の長さ=20,566mm 重ね幅=150mm 出隅加工幅=150mm の場合

$$\begin{aligned} & (\text{棟・隅棟の長さ} + (\text{出隅加工幅} \times \text{出隅の数})) \div (\text{棟・隅棟包みD 1本の長さ} - \text{重ね幅}) \\ & = (20,566 + (150 \times 4)) \div (2,727 - 150) = 8.21 \Rightarrow 9\text{本必要です。} \end{aligned}$$

(ロス分は含まれておりません)

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

●本体

・切妻

積算の面積  $A \text{m}^2 \times \text{ロス率}^{\ast 1}$  (10%)  $A \times 1.1 = B \text{m}^2$   
 $B \text{m}^2 \div 1 \text{ ケースあたりの面積} = B \text{m}^2 \div 4.71 \text{m}^2 = C \text{ ケース}^{\ast 2}$

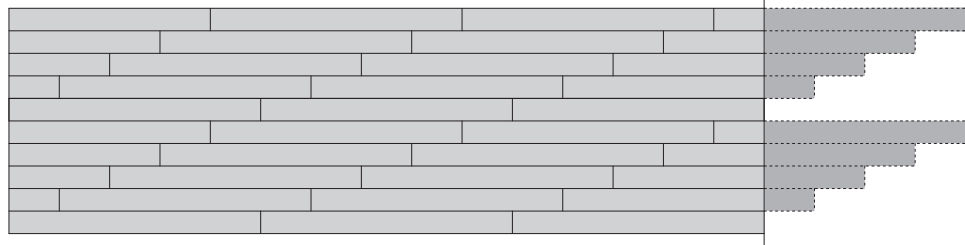
・寄棟

積算の面積  $A \text{m}^2 \times \text{ロス率}^{\ast 1}$  (15%)  $A \times 1.15 = B \text{m}^2$   
 $B \text{m}^2 \div 1 \text{ ケースあたりの面積} = B \text{m}^2 \div 4.71 \text{m}^2 = C \text{ ケース}^{\ast 2}$

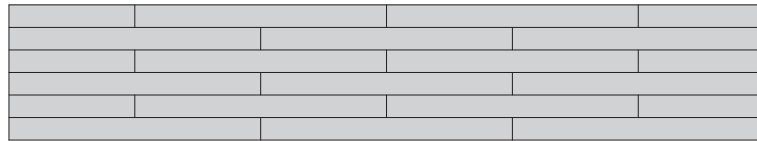
※1：ロス率は目安であり、建物の形状や葺き方（回し葺き、一文字葺き）によって異なります。  
 ※2：本体は、1ケース単位の出荷ですので、小数点は切り上げてください。（例 C=5.3ケース→6ケース）

●本体の葺き方

・回し葺き（階段葺き）＜施工ロスが少なくなります＞

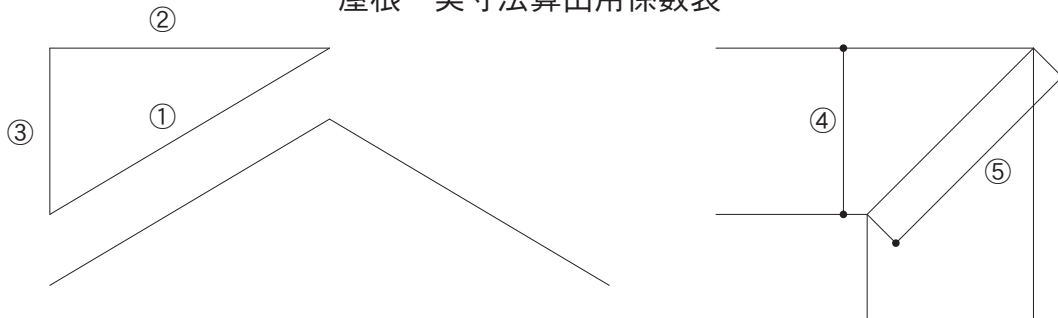


・一文字葺き（千鳥葺き）



参考資料

屋根 実寸法算出用係数表



屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法② × 伏図用係数  
 屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法③ × 立面図用係数  
 隅（谷）の実寸法⑤＝図面上の寸法④ × 伏図・立面図用係数

勾配	2.5寸	3 寸	3.5寸	4 寸	4.5寸	5 寸	5.5寸	6 寸
伏図用係数	1.031	1.044	1.059	1.077	1.097	1.118	1.141	1.166
立面図用係数	4.123	3.480	3.027	2.693	2.437	2.236	2.075	1.944
伏図・立面図用係数	1.436	1.446	1.457	1.470	1.484	1.500	1.517	1.536

勾配	6.5寸	7 寸	7.5寸	8 寸	8.5寸	9 寸	9.5寸	矩勾配
伏図用係数	1.193	1.221	1.250	1.281	1.312	1.345	1.379	1.414
立面図用係数	1.835	1.744	1.667	1.601	1.544	1.495	1.452	
伏図・立面図用係数	1.566	1.578	1.601	1.625	1.650	1.676	1.704	1.732

# 免責事項

---

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

- ・施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- ・入居者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
- ・入居者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
- ・天変地異・周辺環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
- ・通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
- ・建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
- ・シーリング部及び、現場塗装により不具合が生じた場合。
- ・ルーフ本体及び部材に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
- ・水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
- ・くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
- ・建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- ・本来の目的以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

その他ご不明な点などありましたら弊社にご相談ください。



アイジー工業株式会社

本 社	〒999-3716	山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	TEL. 0237-43-1810	FAX. 0237-41-1810
東京営業所	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル6F	TEL. 03-3556-0341	FAX. 03-3556-0342
札幌営業所	〒003-0026	北海道札幌市白石区本通19丁目南2-7 食糧ビル5F	TEL. 011-863-0303	FAX. 011-860-2084
盛岡営業所	〒020-0022	岩手県盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル7F	TEL. 019-605-8050	FAX. 019-605-8051
仙台営業所	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-12 L.Biz仙台5F	TEL. 022-292-5405	FAX. 022-292-5406
北関東営業所	〒330-0802	埼玉県さいたま市大宮区宮町4-150-1 カネゲンビル6F	TEL. 048-658-1600	FAX. 048-658-1602
新潟営業所	〒950-0912	新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54 日生南笹口ビル6F	TEL. 025-240-6718	FAX. 025-240-6719
富山営業所	〒930-0004	富山県富山市桜橋通り1-18 北日本桜橋ビル3F	TEL. 076-443-8621	FAX. 076-443-8622
名古屋営業所	〒460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内1-8-24 綿常第5ビル4F	TEL. 052-218-7885	FAX. 052-218-7886
大阪営業所	〒562-0036	大阪府箕面市船場西2-2-1 ニューエリモビル6F	TEL. 072-749-3188	FAX. 072-749-3199
福岡営業所	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前3-30-23 博多管絃ビル2F	TEL. 092-474-5564	FAX. 092-474-5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。  
商品改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

[www.igkogyo.co.jp](http://www.igkogyo.co.jp)

